KIKUCHIJO

鞠智城 東京シンポジウム

平成26年7月27日〈日〉

時間 10:30～16:30

場所 明治大学 アカデミーコモン・アカデミーホール
〈東京都千代田区神田駿河台1-1〉

主催／熊本県・熊本県教育委員会　共催／明治大学日本古代学研究所
後援／明治大学博物館　熊本県文化財保護協会　朝日新聞社

鞠智城東京シンポジウム

律令国家の確立と鞠智城

～698年「繕治（ぜんち）」の実像を探る～

－ 日 程 －

10:00　**開場**

10:30　**開会あいさつ**

熊本県知事　蒲島 郁夫

来賓紹介

10:40　**報告**

「鞠智城跡の調査と成果～鞠智城「繕治」について～」　10:40～11:00

矢野 裕介（熊本県教育委員会　歴史公園鞠智城温故創生館）

11:00　**基調講演**

「律令制国家の成立と鞠智城」　11:00～12:00

吉村 武彦（明治大学文学部教授）

12:00　**昼休み**　12:00～13:10

※12:10頃からアトラクション

13:10　**講演**

「大宰府防衛体制と鞠智城」　13:10～13:50

小田 和利（九州歴史資料館学芸調査室長）

「鞠智城「繕治」の歴史的背景」　13:50～14:30

森　公章（東洋大学文学部教授）

14:30　**休憩**　14:30～14:50

14:50　**パネルディスカッション**　14:50～16:20

コーディネーター　佐藤　信（東京大学大学院教授）

パネラー　吉村 武彦（明治大学文学部教授）

小田 和利（九州歴史資料館学芸調査室長）

森　公章（東洋大学文学部教授）

矢野 裕介（熊本県教育委員会）

16:20　**閉会あいさつ**

明治大学大学院文学研究科長（日本古代学研究所副代表）　石川 日出志

日時：平成２６年７月２７日（日）　10:30～16:30

場所：明治大学アカデミーコモン・アカデミーホール

主催：熊本県・熊本県教育委員会

共催：明治大学日本古代学研究所

後援：明治大学博物館　熊本県文化財保護協会　朝日新聞社

主催者あいさつ

鞠智城東京シンポジウムに多数の皆様に御参加いただき、心からお礼を申し上げます。

熊本県には、この鞠智城をはじめ、様々な歴史的、文化的、伝統的な宝があります。本県では、この“熊本の宝”を磨き上げ、後世につないでいきたいという思いで、全国に向けた情報発信をはじめ様々な取組みを行っています。その一環として、昨年度に引き続き東京でのシンポジウムを行うこととしました。

鞠智城がある菊池川流域は、全国一の数を誇る装飾古墳をはじめ、朝鮮半島との文化的交流を通じて優れた古代文化が花開いた地域であります。そして、約１３００年前、７世紀後半の激動する東アジア情勢の中で、大和朝廷によって築かれた鞠智城は、「六国史（りっこくし）」に記載された古代山城の一つに数えられる全国有数の重要遺跡として高く評価されています。

熊本県では、昭和４２年から継続して鞠智城の発掘調査を実施して参りました。その３２次にわたる調査の結果、八角形建物跡や貯水池跡など数多くの重要な遺構が相次いで発見されました。平成２０年１０月に出土した百済系銅造菩薩立像（どうぞうぼさつりゅうぞう）は、百済の高級官僚が日本の古代山城の築城に関与したとする「日本書紀」の記述を裏付ける重要な資料として、国内外において大きな注目を集めたところです。

これまでに蓄積された成果を広く公開するため、平成２４年には鞠智城のこれまでの発掘調査や整備事業を総括した２冊の報告書を刊行し、今年３月には研究論文をまとめた『鞠智城跡Ⅱ－論考編１－』を刊行しました。また、シンポジウムや講座など様々な機会を通じて鞠智城の歴史的価値の認知度や知名度の向上を図ってきたところです。

昨年７月に東京で、９月に大阪でそれぞれ鞠智城シンポジウムを開催しましたが、大変多くの方に御参加いただき、鞠智城に対する関心の高まりを実感しているところです。

本日のシンポジウムでは、最新の新しい調査結果等々も含めて、先生方から様々な切り口でお話をお伺いできると思います。皆様方には鞠智城とその時代に心を馳せ、鞠智城への関心をさらに深めていただければ幸いです。本県でも学術的価値や認知度を高めていくため、首都圏での活動に今後も引き続き努めて参りますので、よろしく御願い申し上げます。

最後に、本日御参加の皆様の御健勝、御活躍を申し上げ、挨拶といたします。

平成２６年７月２７日

熊本県知事　蒲島郁夫

報告者・講演者・コーディネーター紹介

【報告者】

矢野　裕介（やの　ゆうすけ）

同志社大学文学部卒業。熊本県文化課を経て、現在、熊本県立装飾古墳館分館「歴史公園温故創生館」文化財整備交流課長。鞠智城発掘調査に従事。

【講演者】

吉村　武彦（よしむら　たけひこ）

東京大学文学部国史学科卒業後、東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京大学文学部助手、千葉大学教養部講師、千葉大学助教授、千葉大学教授を経て、現在、明治大学文学部教授。日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『日本の歴史３　古代王権の展開』、『日本古代の社会と国家』、『古代天皇の誕生』、『日本社会の誕生』、『聖徳太子』、『古代史の新展開』など多数。

小田　和利（おだ　かずとし）

奈良大学文学部史学科を卒業。福岡県教育委員会文化課勤務を経て、現在、九州歴史資料館学芸調査室長。専門は日本考古学。主な論文に、「神篭石と水城大堤－水城の築堤工法からみた神篭石の築造年代について－」、「朝倉橘広庭宮と観世音寺－宮の所在地についての再検討－」、「水城大堤の築堤年代についての一私論」、「須恵器擂鉢について」、「磐瀬宮における諸問題」など多数。

森　公章（もり　きみゆき）

東京大学文学部国史学科卒業後、同大学院博士課程単位取得退学。奈良国立文化財研究所文部技官、高知大学人文学部助教授を経て、現在、東洋大学文学部教授。専門は日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『古代日本の対外認識と通交』、『「白村江」以後』、『古代郡司制度の研究』、『長屋王家木簡の基礎的研究』)、『地方木簡と郡家の機構』、『歴史文化ライブラリー　古代豪族と武士の誕生』など多数。

【コーディネーター】

佐藤　信（さとう　まこと）

東京大学文学部国史学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。奈良国立文化財研究所（平城京跡発掘調査部）研究員、文化庁文化財調査官、聖心女子大学文学部助教授、東京大学文学部助教授を経て、東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『日本古代の宮都と木簡』『古代の遺跡と文字資料』『出土史料の古代史』『律令国家と天平文化』『古代の地方官衙と社会』など多数。

（発表順・敬称略）

鞠智城跡の調査と成果

～鞠智城「繕治」について～

矢野 裕介（熊本県教育委員会）

1　鞠智城跡の概要

鞠智城は、東アジア情勢が緊迫する７世紀後半、朝鮮半島における白村江の敗戦（663）を契機に北部九州の防衛拠点として構築された古代山城である。『続日本紀』文武天皇 2（698）年５月条「大宰府をして、大野、基肄、鞠智の三城を繕治せしむ」を初見とし、『日本文徳天皇実録』天安２(858)年２月・６月条の「菊池城院」、『日本三代実録』元慶３(879)年３月条の「菊池郡城院」など、国史に記載のある城である。

その城跡は、熊本県の北部、阿蘇北外輪山から有明海へと西流する一級河川菊池川（総延長 72km）の中流域、山鹿市、菊池市の市境に位置する。県境を限る筑肥山地の主峰、八方ヶ岳（標高 1,052m）南西麓に形成された丘陵地帯の南端近く、中心標高 145m前後の台地状の丘陵上（通称；米原台地）に立地し、南には菊池川沿いに発達した肥沃な菊鹿盆地が広がる。古代律令制下、肥後国菊池郡に属し、城跡周辺に残る「木野」地名から、『和名類聚抄』にみる「城野郷」に比定されている。

鞠智城跡の城域については、古くから広域説、狭域説が論じられてきたが、現在では、狭域説のうち、土塁線と崖線で囲繞する周長 3.5km、面積 55ha、標高 90～171mの範囲を真の城域〔第１図〕とし、それを包括する約 64.8ha が国史跡に指定されている。

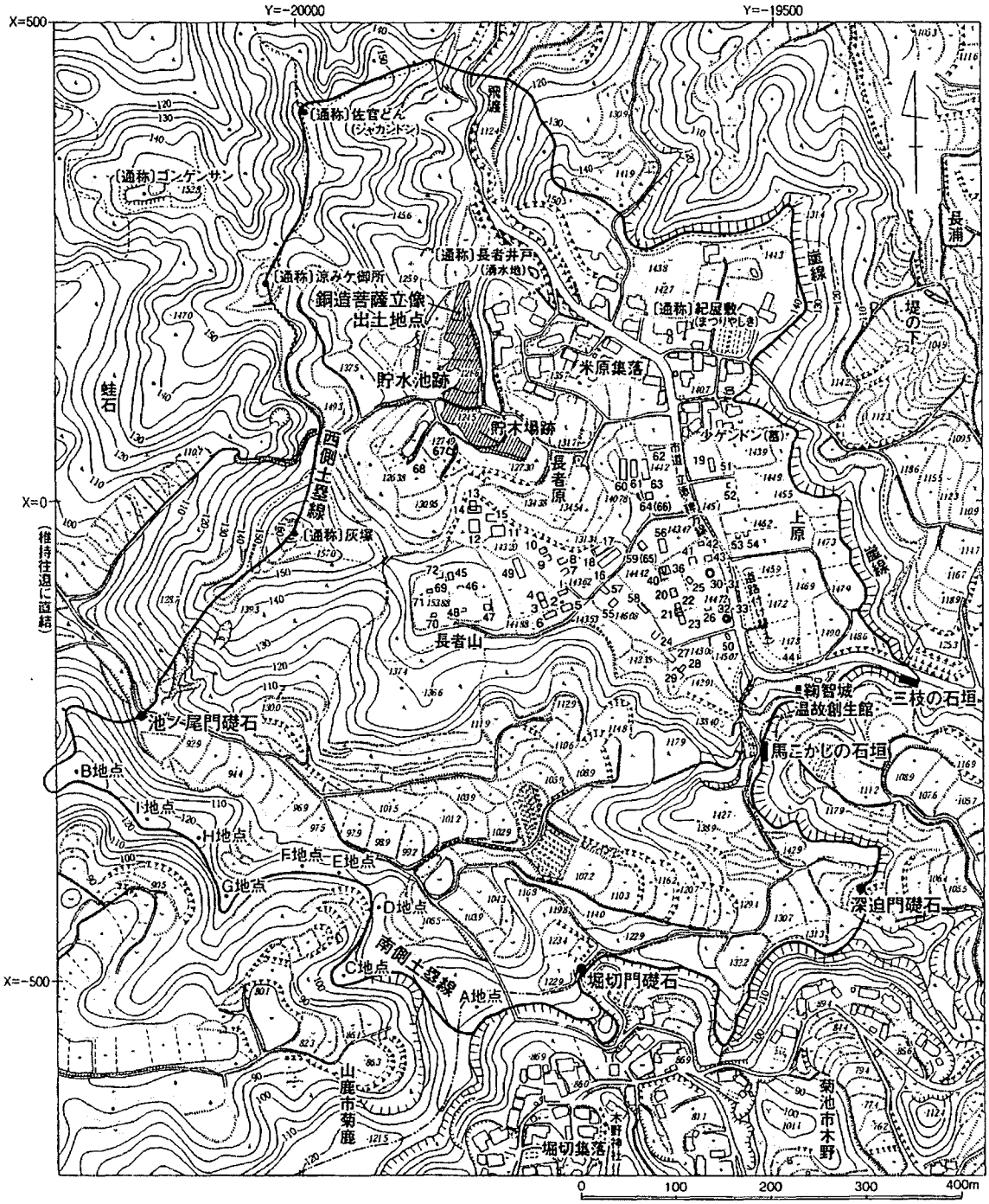
六国史にみる鞠智城　＊『国史体系』吉川弘文館

甲申。令下二大宰府一繕中治大野。基肄。鞠智三城上。
（書き下し文）
「甲申、大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕い治めしむ。」
『続日本紀』文武天皇二（６９８）年五月二十五日条

丙辰。肥後国言。菊池城院兵庫鼓自鳴。丁巳。又鳴。
（書き下し文）
「丙辰、肥後国言す、菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」
「丁巳、又鳴る」
『日本文徳天皇実録』天安二（８５８）年二月二十四・二十五日条

肥後国菊池城院の兵庫鼓自鳴。同城不動倉十一宇火。
（書き下し文）
「肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」
「同城不動倉十一宇火く」
『日本文徳天皇実録』天安二（８５８）年六月二十日条

肥後国菊池郡城院兵庫戸自鳴。
（書き下し文）
「肥後国菊池郡城院の兵庫の戸自ら鳴る」
『日本三代実録』元慶三（８７９）年三月十六日条



第１図　鞠智城跡

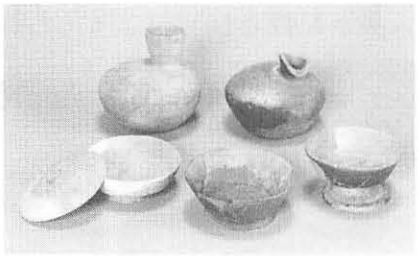
鞠智城跡の発掘調査は、昭和 42（1967）年度の第 1 次調査から平成 22（2010）年度までに 32 次を数える。これまでに、古代山城では唯一の八角形建物跡をはじめとする 72 棟の建物跡〔写真 1〕や 5,300 ㎡の規模を誇る貯水池跡、外郭線上に城門の門礎石、版築工法による土塁跡などの遺構が検出され、城の構造解明が進むとともに、須恵器、土師器などの土器や単弁八葉蓮華文軒丸瓦をはじめとする瓦類、建築用材、木製品に加え、『秦人忍□五斗』銘の付札木簡や百済系の銅造菩薩立像など〔写真 2〕が出土している。

※建物跡が白く点々と見える

写真１　鞠智城跡・長者原地区全景（平成９年度撮影）

銅造菩薩立像

「秦人忍口五斗」銘木簡



須恵器

単弁八葉蓮華文軒丸瓦

木製品（平鍬・横槌）

土師器

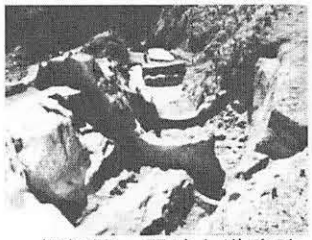
写真２　鞠智城跡の出土遺物

2　時期区分と変遷

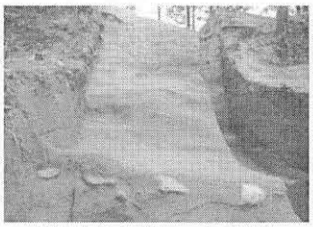
鞠智城跡は、7世紀後半から10世紀中頃まで存続し、その間、役割・機能を変化させながら5期（鞠智城Ⅰ～Ⅴ期）に及ぶ時期区分と変遷が明らかになっている。

【鞠智城Ⅰ期（7世紀第3四半期～第4四半期）】

鞠智城の創建期。創建年代を、『続日本紀』文武2（698）年に「繕治」した大野、基肄の2城の創建（665）とほぼ同時期と推定している。外郭線上に3箇所の城門、土塁線、城内に掘立柱建物、貯水池などを緊急的に整備し、城としての最低限の機能を備えた段階と考えられる。


堀切門・門跡と道路跡

池ノ尾門・石塁跡


西側土塁線・土塁跡

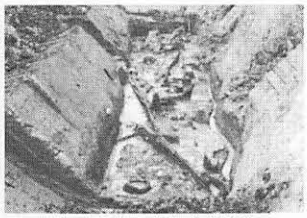
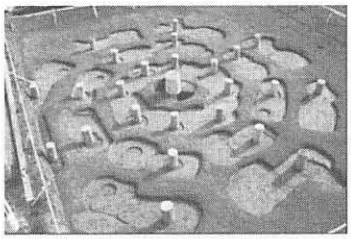

貯水池・貯木場跡

写真3　鞠智城Ⅰ期の遺構

【鞠智城Ⅱ期（7世紀末～8世紀第1四半期前半）】

鞠智城の隆盛期。「コ」字形に掘立柱建物を配置した管理棟的建物群〔第2図〕が出現し、その南側に八角形建物〔写真4〕や総柱建物を配置するなど、城内施設の充実が図られる。当該期の土器の出土量も多く、城の管理・運営に多くの人員が配置されものと考えられる。


南側八角形建物跡

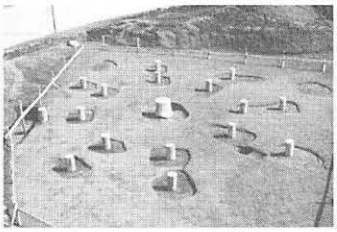
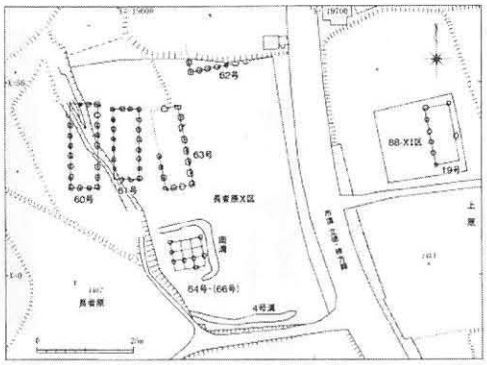

北側八角形建物跡

写真4　鞠智城Ⅱ期の遺構



第2図　管理棟的建物群

【鞠智城Ⅲ期（8世紀第1四半期後半～第3四半期）】

鞠智城の転換期。城内の建物配置はⅡ期を踏襲しながらも、総柱建物が小型礎石を使用した礎石建物〔写真5〕に建て替えられる。出土土器の空白期に当たることから、城の存続上必要な最小限度の維持・管理がなされていたものと考えられる。

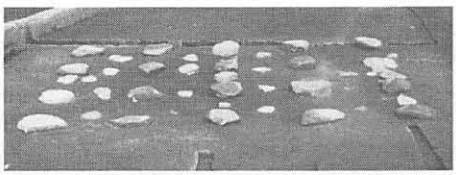
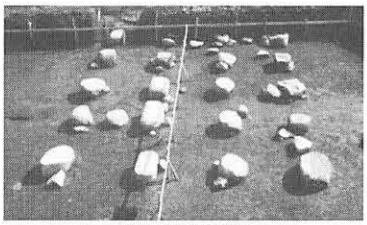

65号建物跡（次の鞠智城Ⅳ期の礎石建物跡と重複しており、小型の礎石のほうが65号建物跡）

写真5　鞠智城Ⅲ期の遺構

【鞠智城Ⅳ期（８世紀第４四半期～９世紀第３四半期）】

鞠智城の変革期。管理棟的建物群の消失や貯水池中央部の機能低下がある一方、Ⅲ期の礎石建物が大型礎石を使用した礎石建物〔写真 6〕に建て替えられ、食糧等の備蓄機能が主体となる。これら建物群は、当該期末に焼失しており、『文徳実録』天安２（858）年の不動倉火災との関連が想定される。



20 号建物跡

写真６　鞠智城Ⅳ期の遺構

【鞠智城Ⅴ期（９世紀第４四半期～10 世紀第３四半期）】

鞠智城の終末期。城内の建物数は減少し、城の機能は低下するものの、大型の礎石建物を建て直すなど、食糧等の備蓄機能は存続する。

【各期における建物跡の種別】
鞠智城Ⅰ期（掘立柱）
鞠智城Ⅱ期（掘立柱）
鞠智城Ⅲ期（掘立柱、礎石）
鞠智城Ⅳ期（掘立柱、礎石、礎石・掘立柱併用）
鞠智城Ⅴ期（礎石）

第３図　建物遺構の変遷

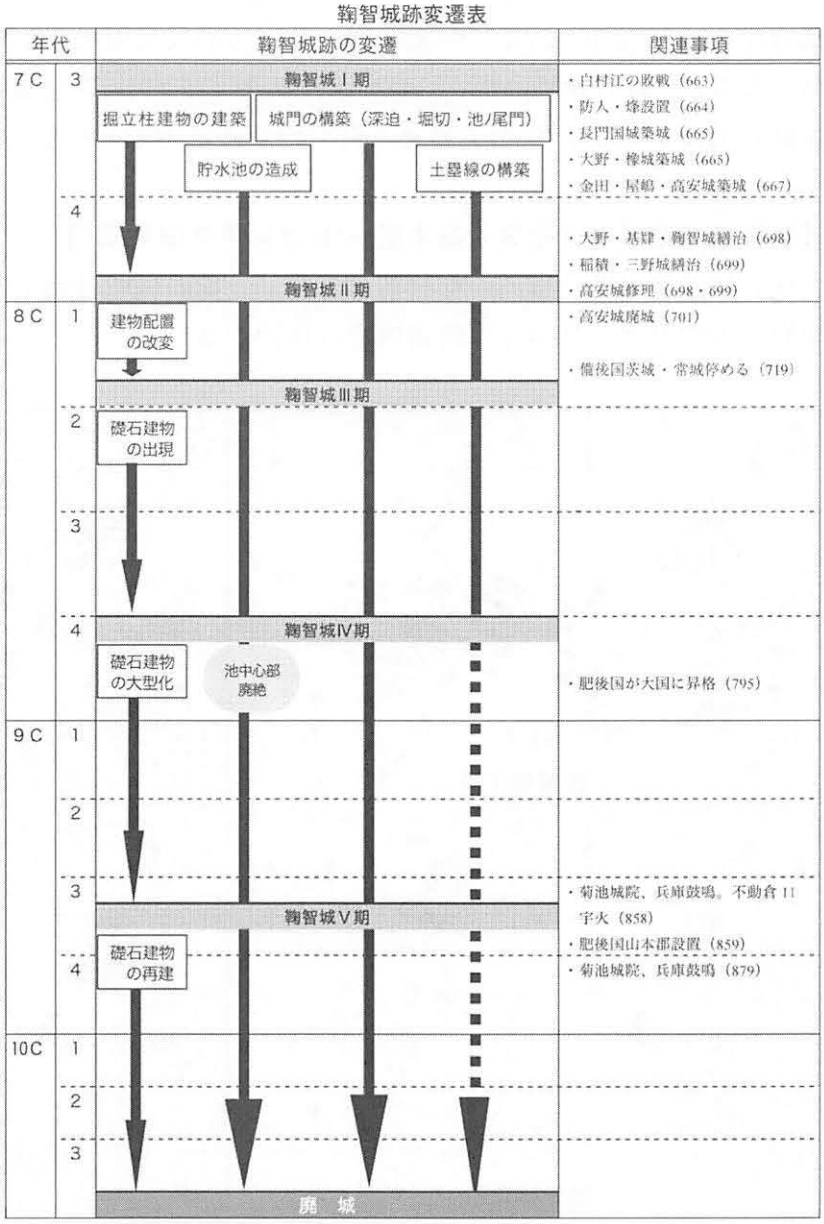
3　鞠智城「繕治」の様相

鞠智城跡における鞠智城Ⅱ期は、年代的に『続日本紀』文武２（698）年５月条の鞠智城「繕治」の前後に当たる。

鞠智城Ⅱ期は、城内施設に総柱建物が少なく、小型の側柱建物が多く配置した鞠智城Ⅰ期に対して、Ⅰ期とは異なる主軸方向を持つ官衙的な建物群（管理棟的建物群）の出現や、その南側に八角形建物、総柱建物等を配置するなど、城内施設の配置が大きく変化することが特徴として挙げられる。また、日常什器となる土器の増加も特徴として挙げられ、城内施設の変容とともに、人員を多く配置するなど、城の管理・運営に何らかの変化が生じた可能性が指摘できる。

こうしたことから、鞠智城の「繕治」は、単なる城の修理・補修だけで捉えられるものではなく、城の役割・機能、そして城の管理・運営の変化を伴うものであったものと考えられる。

鞠智城跡変遷表



4　まとめ

鞠智城跡の変遷については、鞠智城Ⅲ期前半まで大宰府政庁跡の変遷とほぼ連動していることが指摘されており、このことは、少なくもその時期まで、鞠智城が「大宰府」との密接な関係のもと機能していたことを示すものである。こうした観点も踏まえて、鞠智城「繕治」の歴史的背景を考えていく必要があろう。

【参考文献】

熊本県文化財調査報告第276集『鞠智城跡Ⅱ－鞠智城跡第8～32次調査報告－』熊本県教育委員会 2012

律令制国家の成立と鞠智城

吉村武彦

はじめに

日本列島では、７世紀後半、内外にわたって激震があった。663年（天智２）、当時の倭国は「百済救援」に向かったが、朝鮮半島における白村江の戦いにおいて、百済・倭国連合軍は新羅・唐軍に大敗した。ここに百済国は最終的に滅亡したが、「国が滅びる」という事実を体験することになった。しかも、この敗戦は唐の外寇に備える体制の構築を迫られることになった。

続いて、673年（天武元）、近江朝の大友皇子軍と天智天皇の弟大海人皇子軍との間に、壬申の乱が勃発した。大海人軍が勝利したが、戦いの最中、大友側は筑紫大宰栗隈王に兵を起こす命令を伝えに行ったが、大海人側という栗隈王は「筑紫国は、元より辺賊の難を戍る」と述べ、出兵させられなかったという。

このような内外にわたる戦いによって、朝廷は「政の要は軍事にある」ことを認識せざるをえなくなった。とりわけ白村江の敗戦は、旧来の国造軍による戦闘体制の改変を余儀なくさせることになった。日本古代の軍事制度は、こうした経験を経て具体化されていったと思われる。

唐律令を導入し、律令制国家を建設していくことが始まり、氏姓制・官人制の整備を急ぎ、やがて浄御原令の施行（689年）、戸籍の作成（庚寅年籍、690年）、藤原宮遷都（694年）と歴史は動いていく。大宝令以前に、兵政官（後の兵部省）・兵衛・兵庫職（後の兵庫寮）や兵士はまちがいなく存在していたが、浄御原令に軍防令の篇目があったという確かな証拠はない。

ところで、『日本書紀』持統３年閏８月条に、戸令による戸籍（庚寅年籍）の作成と、各国における武事教習が指示されているように、造籍と兵士制とは強い関係があると想定される。また、福岡県太宰府市の国分松本遺跡から出土した、戸籍関連の木簡に「兵士」の記載があり、戸籍と兵士制とが密接な関係にあることが判明した。こうした戸籍や兵士は、戸令・軍防令に規定されており、その内実は律令法の規定そのものである。

本報告では、こうした律令法制に基づく律令制国家の成立に焦点をあて、鞠智城繕治の意味を説いていきたい。

Ⅰ　講演の趣旨

一　鞠智城の初見記事

1. 『続日本紀』文武２年（698）５月25日条「大宰府をして、大野・基肄・鞠智の三城を繕治はしむ」である。ただし、大野・基肄城は、『日本書紀』天智４年８月条に「達率憶礼福留・達率四比福夫を筑紫国に遣して、大野及び椽（基肄）二城を築かしむ」とあるが、鞠智城はみえない。
2. 鞠智城の記載がないのは、①単なる脱漏なのか、あるいは②大野・基肄城とは性格が異なるからなのか。また、大宰府関連の山城でも、阿志岐山城（奈良時代は蘆城か）のように、国史に登場しない山城もある。
3. その逆に、９世紀後半の六国史に「菊池城（兵庫）」の記載がみえる。

二　鞠智城の発掘調査が示す事実

1. 発掘調査の報告書『鞠智城跡 Ⅱ』によれば、鞠智城は

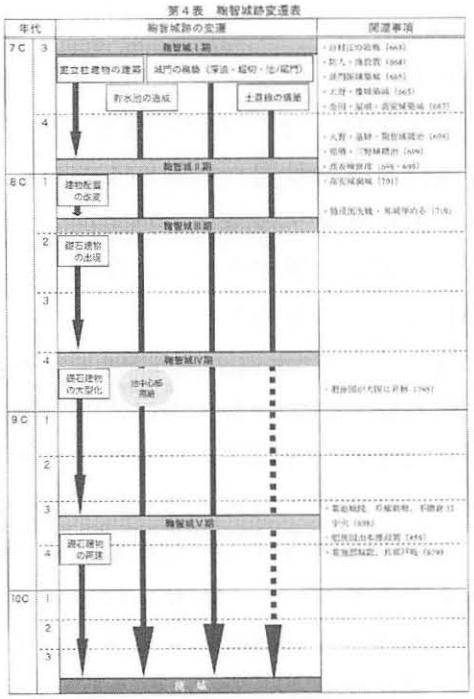
第１期　７世紀第３四半期～第４四半期
　　創建期

第２期　７世紀末～８世紀第１四半期前半
　　コの字型建物群、八角形建物。土器等の遺物出土量が多く、内部施設が充実化。

第３期　８世紀第１四半期後半～第３四半期
　　礎石建物出現

第４期　８世紀第４四半期～９世紀第３四半期
　　礎石建物の大型化

第５期　９世紀第４四半期～10世紀第３四半期
　　倉庫機能



『鞠智城跡 Ⅱ』論考編１

に時期区分ができる。この結果によれば、第２期が文武２年条の時期にあたり、第１期は天智朝に関係する。

2. 出土した百済系銅像菩薩立像は、第１期である。
3. 第２期に出現する八角形建物が、遺跡にとって重要。八角形の建物は、前期難波宮（孝徳朝）や法隆寺夢殿、地方では三軒屋遺跡（上野国佐位郡衙正倉）などにみられる。また、天皇陵古墳にも八角形墳がある。
4. 遺跡の性格は、政庁のような施設という（西谷正「鞠智城と菊池川文化」）。

三　文献と考古学的発掘調査から、何を読み取るのか。また、どのような論点があるのか、史料と発掘調査の成果から考えてみる。

1. 文武２年前後の歴史の流れを、どのように理解するのか。
2. 天智朝と文武朝（浄御原令制期）の築城・繕治の労働力はどのようになっているのか。また、兵士の徴発はどうか。防人との関係を含め、律令制の成立とどのように関わっているのか。
3. 南島への覓国使派遣は、どこから出港するのか。
4. 唱更国（薩摩国）の建国とは、関係しているのか。
5. 国分松本遺跡出土木簡に、新史実はあるのか（鞠智城の築城と兵士・政丁）。
6. 九州島における律令制支配 － 薩摩国・大隅国の建国と南島政策との関係。

Ⅱ　律令制と軍備

一　兵士徴発と戸籍

(1) 天武朝（持統３年以前）

＊人夫から徴発

＊指揮具・大型武器は郡家（評家）所蔵

(2) 浄御原令制下の戸籍　（美濃国戸籍に一部影響か）

＊兵士制（兵士と政丁）

＊軍団制を志向するが、未整備。

(3) 大宝令戸籍　（西海道戸籍）

＊兵士は「丁（正丁・少丁）」から徴発

＊軍団制

(4) 養老５年籍式戸籍　（下総国戸籍）

＊正丁兵士制

二　軍団制と律令法

(1) 軍制の特徴と律令法

① 大化以前　　国造軍（軍士制）

② 大化改新　　武器収公・兵庫建設政策、評造軍

③ 白村江の戦い以降の天智朝軍制　　朝鮮式山城等の防衛策

④ 壬申の乱と天武朝　　「畿内官人武装策」と儀仗兵制の整備

⑤ 浄御原令制

⑥ 大宝令制

(2) 城柵

＊城柵官衙遺跡　　越後、東北

＊城　　西日本

(3) 律令法と城柵と兵士

＊養老律衛禁律24越垣及城条　　「筑紫城」

＊養老軍防令53城隍条　　「役兵士修理」

三　薩摩国・大隅国の建国と南島覓国使

四　国分松本遺跡出土木簡

(1) 嶋評戸口変動記録木簡

＊兵士と政丁

(2) 兵士優先の戸籍作成

むすびにかえて

資料1

・「嶋評　戸主建ア身麻呂戸又附去建□（アカ）×
政丁次得□□（万呂カ）兵士次伊支麻呂政丁次×
『嶋□□（戸カ）
占ア恵□□川ア里占ア赤足戸有□□×
小子之母占ア真□（廣カ）女老女之子得×
□□□』
穴凡ア加奈代戸有附□□（建ア万呂戸カ）□□占ア×
□□

・「并十一人同里人進大武建ア成戸有　戸主□（建カ）×
同里人建ア昨戸有戸主妹夜乎女同戸□□（有カ）×
麻呂損戸　又依去同ア得麻女丁女同里□□（人カ）×
白髪ア伊止布損戸　二戸別本戸主建ア小麻呂□×

坂上康俊釈文（『木簡研究 35』）

【年表】

663	天智 2	白村江の戦いで大敗。
664	天智 3	唐使郭務悰が、表函・献物を進上する。対馬島・壱岐島・筑紫国等に防と烽とを置く。筑紫に水城を築く。
665	天智 4	長門国に城、筑紫国に大野・椽（基肄）の２城を築く。唐使劉徳高・郭務悰と禰軍（旧百済官人）が、表函を進上する。遣唐使派遣。
667	天智 6	近江に遷都。唐使が、遣唐使を筑紫に送る。大和国高安城・讃岐国屋島城・対馬国金田城を築く。
668	天智 7	天智天皇即位。新羅が調を貢納する。唐が高句麗を滅ぼす。
669	天智 8	蘇我赤兄が筑紫率。新羅が進調。高安城を修理し、田税を収む。遣唐使を派遣。唐使郭務悰ら2000人が遣わされるか。
670	天智 9	戸籍（庚午年籍）を造り、盗賊・浮浪を断つ。遣新羅使。 新羅が高句麗王を冊立（唐・新羅の対立）
671	天智10	冠位・法度を施行（「近江令」の存否）。唐使が上表。天智天皇没。
672	天武 1	壬申の乱。大海人皇子が近江朝廷軍を破る。
673	天武 2	大海人皇子が即位（天武天皇）。
675	天武 4	栗隈王を兵政官長とする（栗隈王は壬申の乱時に筑紫大宰）。 畿内の諸王・有位者に武装させる。〔676, 679, 684, 685, 693, 699, 700〕
676		唐が朝鮮半島支配を放棄する。
681	天武10	諸王・群卿の鞍馬を検校する。
683	天武12	諸国に詔して、陣法を習わせる。
684	天武13	文武官人の威儀（乗馬・兵、装束）を整える。
685	天武14	軍用の楽器・兵器の私家所蔵をやめ、郡家に収める。
686	朱鳥 1	天武天皇没。持統皇后称制。
689	持統 3	浄御原令（22巻）施行。戸籍作成（庚寅年籍）。兵士への武事教習。
690	持統 4	持統天皇即位。
693	持統 7	諸国に陣法博士を遣わし、兵法を教習させる。
694	持統 8	藤原宮遷都。
698	文武 2	南島に使を遣わし、国をもとめさせる。大宰府に、大野・基肄・鞠智三城を繕治せしむ。
699	文武 3	南島より帰る。大宰府に、三野・稲積二城を修せしむ。
700	文武 4	筑紫惣領に、覓国使を脅迫した薩末比売、衣評督・助督、肝衝難波を処罰させる。　〔覓国使は698年の遣使か、新たな遣使か〕
701	大宝 1	大宝律令（律6巻、令11巻）完成。
702	大宝 2	命に逆らう薩摩・多禰を征討し、戸を校へ吏を置く。〔国司・島司〕 唱更国司ら「国内要害の地に柵を建て、戍を置きて守らむ」と言う。
713	和銅 6	大隅国を置く。
718	養老 2	養老律令（律10巻、令10巻。施行は757年〈天平宝字1〉）
719	養老 3	備後国安那郡茨城、蘆田郡常城を停する。
756	天平勝宝8	怡土城を築く。

【参考文献】

大高広和「八世紀西海道における対外防衛政策のあり方と朝鮮式山城」
『鞠智城と古代社会』1、2013年
菊池達也「律令国家成立期における鞠智城」『鞠智城と古代社会』2、2014年
木村龍生「鞠智城の役割に関する一考察」『鞠智城跡』Ⅱ、2014年
熊谷明希「文武朝における「薩摩隼人」の征討と唱更国の成立」『歴史』121、2013年
坂上康俊「嶋評戸口変動記録木簡をめぐる諸問題」『木簡研究』35、2013年
下向井龍彦「日本律令軍制の形成過程」『史学雑誌』100-6、1991年
鈴木拓也「軍制史からみた古代山城」『古代文化』61-4、2010年
西谷　正「鞠智城と菊池川文化」『菊池川流域古代文化研究会だより』19、2007年
吉永匡史「律令軍団制の成立と構造」『史学雑誌』116-7、2007年
吉村武彦「「浄御原朝庭の制」に関する二・三の考察」『日本古代の国家と王権・社会』
塙書房、2014年

熊本県教育委員会『鞠智城跡　Ⅱ』2014年
熊本県教育委員会編『鞠智城を考える』山川出版社、2010年
熊本県教育委員会『鞠智城を考える　Ⅱ』2012年
熊本県教育委員会『ここまでわかった鞠智城』2013年

大宰府防衛体制と鞠智城

小田 和利（九州歴史資料館）

1　Ⅰ期大宰府の成立

(1) 斉明天皇の征西と朝倉宮

1)斉明天皇

※皇極天皇・斉明天皇として二度皇位につく。百済復興のため征西し，朝倉宮を築造したもののそこで崩御する。天智・天武天皇の母親でもある。

2)朝 倉 宮：正式名称は，朝倉橘広庭宮（あさくらのたちばなのひろにわのみや）

※斉明天皇7年(661)，百済復興に関連して築造された仮宮で，宮の推定地として1.旧朝倉町須川，2.同山田，3.旧杷木町志波地区，4.小郡市上岩田遺跡，5.大宰府政庁跡がある。

3.の志波地区（現朝倉市杷木志波）は三方を山で囲まれた約1km四方の範囲で，南西には筑後川が流れる天然の要害であり，7c後半代の建物群も存在することから宮の最有力候補地。

①志波台地建物群：掘立柱型式の大規模な建物群

杷木宮原遺跡3棟・志波桑ノ本遺跡3棟・志波岡本遺跡4棟・大迫遺跡9棟

杷木宮原遺跡1号建物…梁行2間(4.6m)×桁行6間(12.96m)

②宮関連地名：宮原（みやばる）・宮下・政所・落中（洛中？）・殿築・出殿越（しゅつでんごえ）・橘田

③観世音寺との関連：「観世音寺資財帳」（延喜5・905年）の水田章に杷木田・高山田の記載があり，薗地49町のうち約半分の25町6歩が大宝2年(702)に観世音寺に施入された。

3)斉明天皇の征西

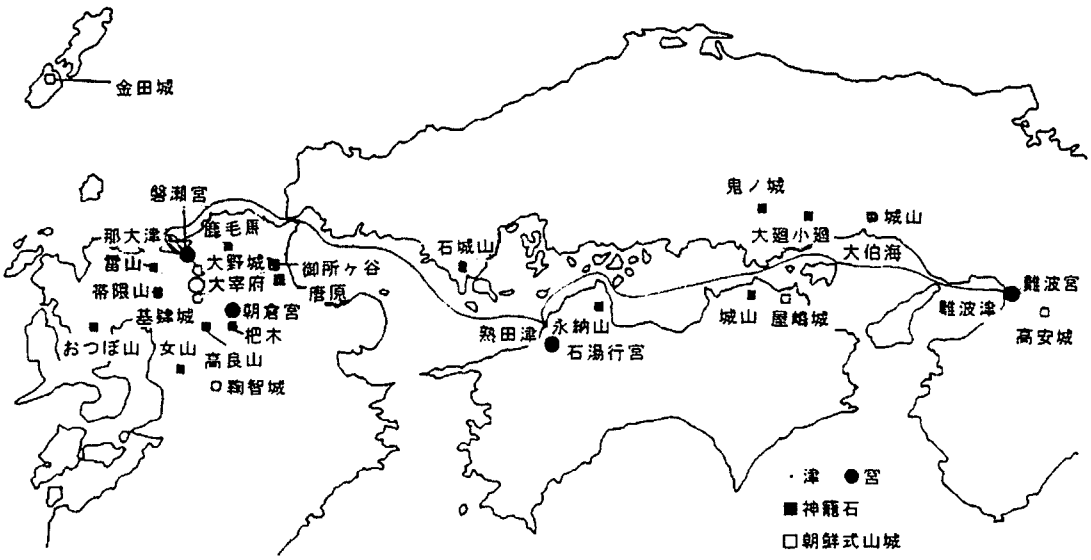
〔征西ルート〕（滞在日数）

12/24(14)　1/6　1/8　1/14(68)　3/25　3/25(45)　5/9(76)

難波宮 → 難波津 ～ 大伯海 ～ 石湯行宮 ～ 那大津 → 磐瀬宮 → 朝倉宮

飛鳥川原 ← 難波津 ～ 長津(那大津) ← 長津宮(磐瀬宮) ← 朝倉宮・斉明崩御

11/7　10/23　10/7　8/1(67)　7/24



征西ルートと古代山城の分布

(2) Ⅰ期大宰府の成立

1)筑紫大宰・筑紫大宰帥(率)・筑紫都督府・筑紫率・筑紫捻領・大宰府・大宰帥

宰（みことモち）：天皇の命を受けて任国に下り，地方の政務を司った官人

大宰・総領：地方行政上重要な地域に置かれ，数ヶ国を包括する広い地域を統括する地方行政長官。筑紫大宰の他に吉備大宰・周芳総令・伊予総領が存在したが，大宝令の施行とともに廃され，大宰帥のみ残った。

①筑紫大宰（つくしのおおみことモち）…推古17年(609)初見～持統4年(690)

②筑紫大宰帥（つくしのおおみことモちのかみ）…大化5年(649)・持統3年(689)

③筑紫大宰府（つくしのおおみことモちのつかさ）…天智10年(671)

④筑紫大宰府典（つくしのおおみことモちのつかさのふびと）…持統5年(691)

「直広肆筑紫史益，筑紫大宰府典に拝されしより以来，今に29年」

・筑紫史益は，29年に及ぶ清白忠誠の勤務により恩賞を賜る。

→663年（天智2）には，官司としての大宰府が存在

⑤筑紫都督府（つくしのおおみことモちのつかさ）…天智6年(667)

⑥筑紫率（つくしのかみ）…天智7年(668)・天智8年(669)・天智10年(671)

⑦筑紫大宰率（つくしのおおみことモちのかみ）…持統6年(692)・持統8年(694)

⑧竺志惣領・筑紫捻領（つくしそうりょう）…文武4年（700）

⑨大宰府（おおみことモちのつかさ）…天武6年(677)・文武2年(698)・文武3年(699)

⑩大宰帥（おおみことモちのかみ）…大宝2年(702)～

◎大宰系官職は浄御原令制以前にも存せず，「総領」の語を「大宰・大宰府・大宰帥（率）」に書き改めた。〔直木孝次郎〕

◎筑紫大宰の官名は，筑紫大宰→筑紫大宰率（帥）→筑紫総領→大宰帥へ変更された。

◎筑紫大宰は，百済の役後の朝鮮・中国を巡る東アジアの国際緊張に対処するための軍事的官司として機構化された。唐・新羅との使節の往来が再開されると外交の出先機関としての，西海における地方統治組織としての役割を増大することになった。〔八木充〕

◎那津官家の機能や機構などを継承し，それを官制的に発展させ，その管掌者の官職名として筑紫大宰が創設された。〔倉住靖彦〕

2)大宰府政庁跡

所在地：福岡県太宰府市観世音寺〔都府楼跡〕

立　地：大城山（標高410m）より派生した月山・蔵司丘陵に挟まれた沖積段丘上

遺　構：3時期の遺構が存在

Ⅰ期（7ｃ後半～8ｃ初頭）－掘立柱建物　＊軍事的施設？

四面廂建物SB121・側柱建物SB122・総柱建物SB123・柵SA110他

Ⅱ期（8ｃ前半～10ｃ中頃）－礎石建物　朝堂院形式　＊西海道を総監する官衙

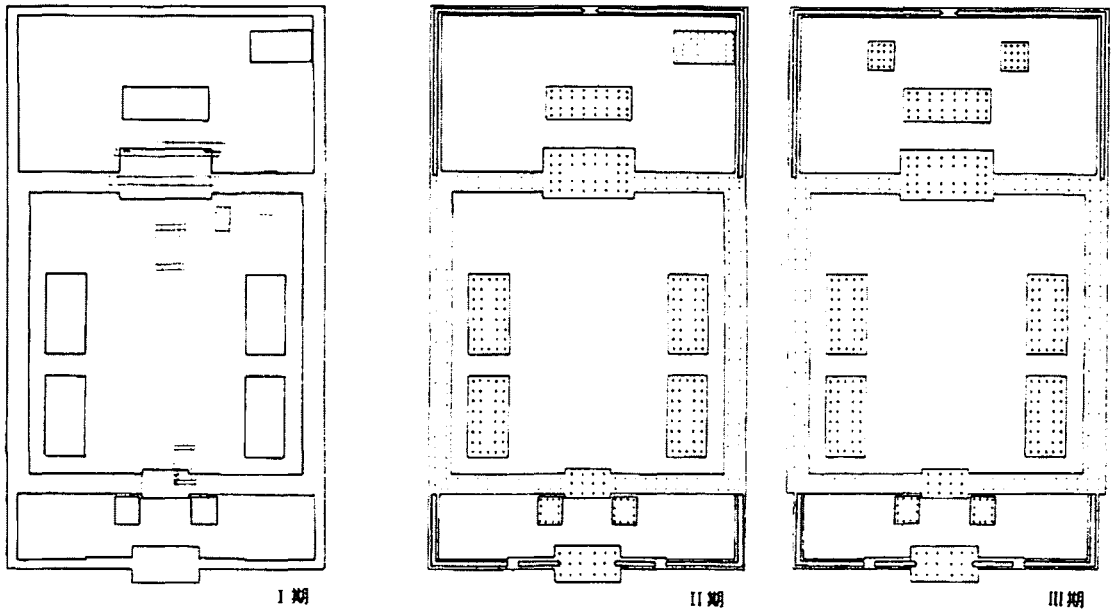
正殿・後殿・脇殿・南門・中門・回廊・築地

→　藤原純友の乱（天慶4・941年）で焼失

Ⅲ期（10ｃ後半～12ｃ前半頃）－礎石建物　朝堂院形式　＊被災後の再建建物

正殿・後殿・脇殿・南門・中門・回廊・築地

規　模：南北214.15m，東西119.2m（Ⅲ期）



政庁建物変遷（『大宰府政庁跡』）

3) I 期遺構

I 期古段階（白村江敗戦直後）

側柱建物SB122・360

柵SA111

I 期新 a 段階（7 c 第4四半期前半）

四面廂建物SB121

長棟建物SB120

柵SA110

溝SD125・127

I 期新 b 段階（7 c 第4四半期後半）

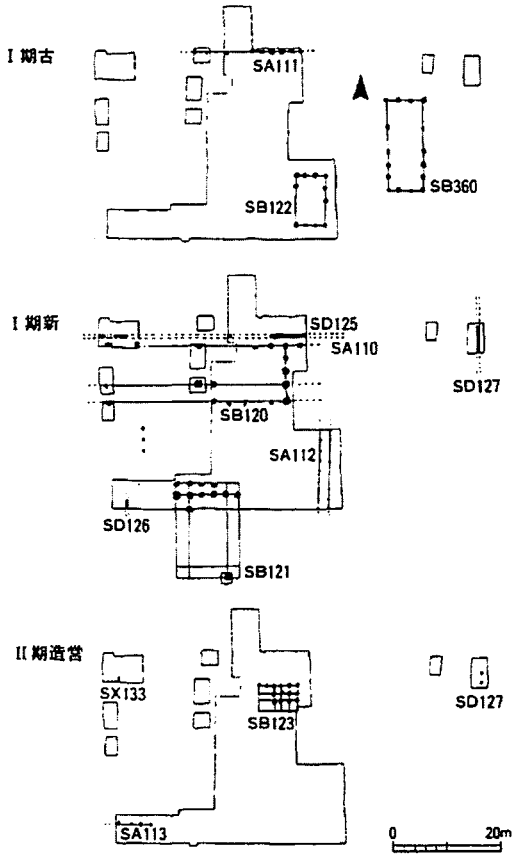
柵SA112

溝SD126

II 期造営段階（8 c 第1四半期初頭）

総柱建物SB123

柵SA113



I 期遺構変遷図（『大宰府政庁跡』）

4) 大宰府の機能

①対外交渉　**蕃客**…諸国使節に関すること。客館が那津口に設けられた**鴻臚館**

帰化…帰化人の措置に関すること

饗讌（きょうえん）…外国使節及び渡来者の接待に関すること

②西辺防備　・防人司が管掌し，防人は対馬・壱岐・筑紫国の湾岸防備の任に就く。

・水城・大野城などの防衛施設は，有事に備え長期間維持管理された。

③西海道諸国島の総監

2　大宰府防衛体制の構築

(1) 水城・大野城・基肄城・鞠智城の登場

1)水　城

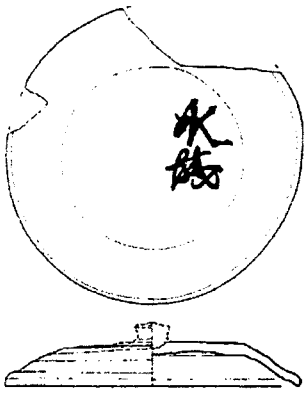
①「対馬嶋・壱岐嶋・筑紫国等に防と烽とを置く。又，筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ。名けて水城と曰ふ」

『日本書紀』天智3年(664)是歳条

築造年：天智3年(664)

築造者：不明

名　称：水城（みずき）



井戸SE065出土「水城」銘墨書土器

2)大野城・基肄城

①「秋八月に達率答炑春初を遣して，城を長門国に築かしむ。達率憶禮福留・達率四比福夫を筑紫国に遣して，大野及び椽二城を築かしむ」『日本書紀』天智4年(665)8月条

築造年：天智4年(665)8月　→着手は天智2年9月末。約2年

築造者：百済高官憶禮福留・四比福夫…天智10年(671)大山下（従六位下）を授かる。憶禮福留は，余自信・木素貴子・谷那晉首等と白村江敗戦翌月の天智2年(663)9月25日に日本軍とともに来日

名　称：〔大野城〕

大野城（おおののき）　『日本書紀』

大野山（おおのやま）・城山（きのやま）・大城乃山（おおきのやま）『万葉集』

大城（おおき）　墨書土器銘

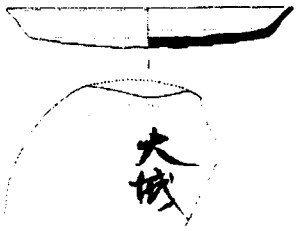
→大規模な山城であることから付けられた名称

〔基肄城〕

椽城（きのき）　『日本書紀』

基肄城（きいのき）　『続日本紀』

記夷城（きのき）　『万葉集』



不丁官衙溝SD2340出土「大城」銘墨書土器

②「高安城を修りて，穀と鹽とを積む。又，長門城一つ，筑紫城二つを築く」

『日本書紀』天智9年(670)2月条

※筑紫城二は，大野城・基肄城を指し，又以下は天智4年条の重出記事

3)鞠智城

①「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕治はしむ」『続日本紀』文武2年(698)5月条

※鞠智城の初見記事。築造年・築造者は不詳であるが，出土品（百済系軒丸瓦・銅造菩薩立像）から大野城と同時期とみられる。

築造年・築造者：不詳

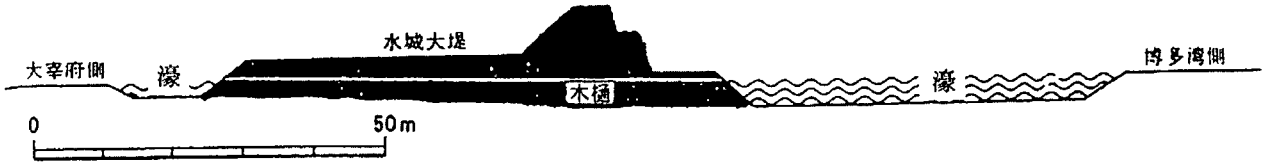
名　称：鞠智城（くくちのき）　『日本書紀』

菊池城（くくちのき）　『日本文徳天皇実録』

(2) 大宰府防衛施設

1) 水城跡

※水城は長さ約1.2kmの長大な土塁で，東の四王寺山と西の背振山系からのびた丘陵を繋ぐ形で横たわり，交通の要衝である福岡平野南端の狭隘部を塞ぐ。



水城断面模式図（『大宰府と多賀城』）

①構　造

土塁…長さ約1.2km・幅約80mの基底部に基部幅20～22m・高さ7～9mの土塁本体を構築

・土塁本体は博多側に幅5mのテラスを有し，約70°の傾斜角で立ち上がる。

・基底部の盛土は雑であるが，土塁本体の盛土は**版築工法**　→水城二段階築造説

・基底部盛土中に粗朶（枝葉）を敷く。

木樋…基底部下位に長さ79.5mの木樋（内法：幅85cm・高さ80cm，杉・檜材）を埋設

・旧国道3号線西側（東門跡西側）とＪＲ鹿児島本線東側及び同西側の計3箇所で確認

外濠…土塁の博多側に外濠（長さ約1km・幅約60m・深さ約4m）が存在

・外濠は東西門建物の内側で終わり，門建物の前面には路面が連続する。

②**門建物**…土塁の東西両端に門を設置　東門：旧国道3号線側，西門：太宰府市吉松の市道

・西門跡では3時期の門変遷が判明

Ⅰ期（7ｃ後半）—SB120A　掘立柱式・唐居敷（からいじき）門礎（柱間4.22m，杉材）…**冠木門**（かぶきもん）

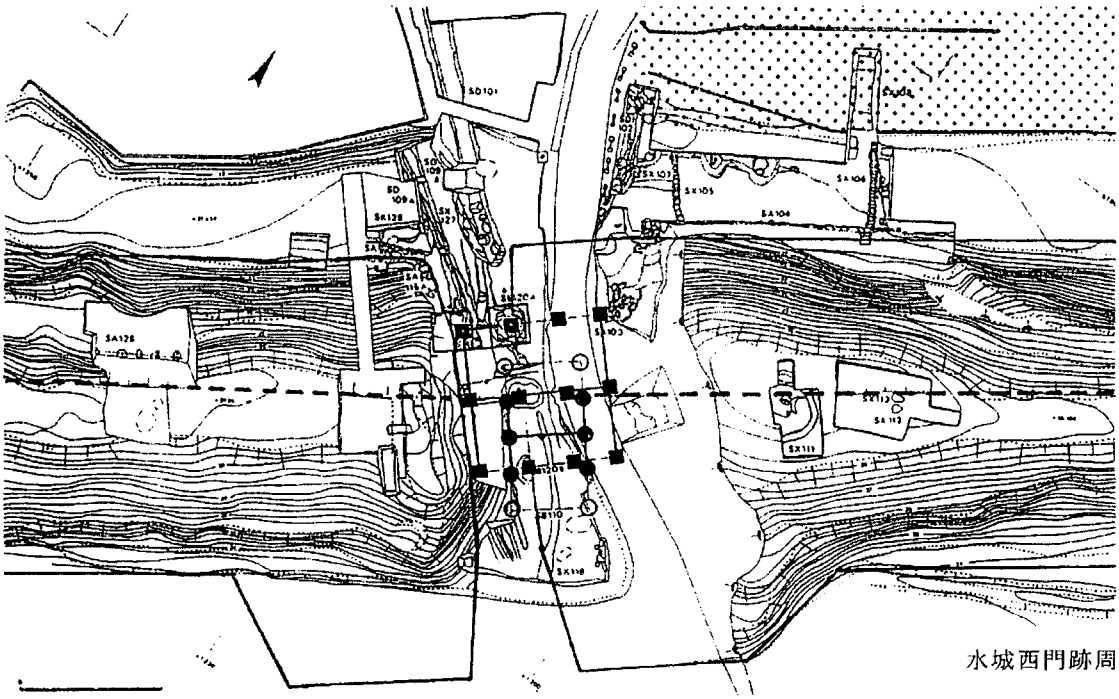
＊防御機能を重視した堅牢な門

Ⅱ期（8ｃ前半）—SB120B　瓦葺礎石建物（2×3間，10×10m）　…**八脚門**

＊大宰府の表玄関にふさわしい壮麗な門

Ⅲ期（9ｃ代）　—SB110　瓦葺礎石建物（1×4間，5.4×10.4m）　…**楼　門**

＊防御的側面を強化した門



水城西門跡周辺図

2)大野城跡

※大野城は水城築造(664年)の翌年に，大宰府政庁背後の四王寺山（標高410m）に築かれた古代山城で，尾根線を周囲約6.2kmの土塁で繋ぎ，谷部には石塁を設けている。城内からは70棟程の礎石建物（倉庫）が発見されており，籠城としての性格を有する。

大野城跡全図（太線:土塁，■：建物　『大野城跡Ⅶ』）

①構　造

土塁…尾根線を馬蹄形に繋ぎ，外郭線約6.2km，基部幅11.4m・高さ6.4mの規模で，北側と南側は二重に巡らす。土塁本体は版築工法により外壁は70°の傾斜角をもつ。

柵　…土塁頂部に柱列（柱径約20cm）を1～2m間隔で設ける。

石塁…谷部には石を積み上げ，6箇所の石塁が知られる。通常，石塁基部には水門を設けるが，屯水石垣を除き水門を設けておらず，自然排水としている。

②**城　門**…土塁線の南に5箇所（太宰府口・坂本口・水城口・原口・観世音寺口）と北側に4箇所（宇美口・北石垣・小石垣・クロガネ岩）設ける。

・北石垣城門跡からは，鉄製軸受け金具（長さ26cm・重さ12.8kg）が出土

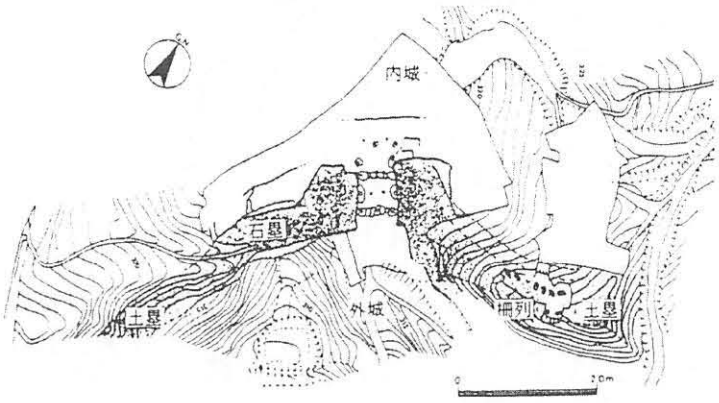
③**建　物**…城内の8地区において礎石総柱建物（倉庫）を主体とする建物が70棟程存在

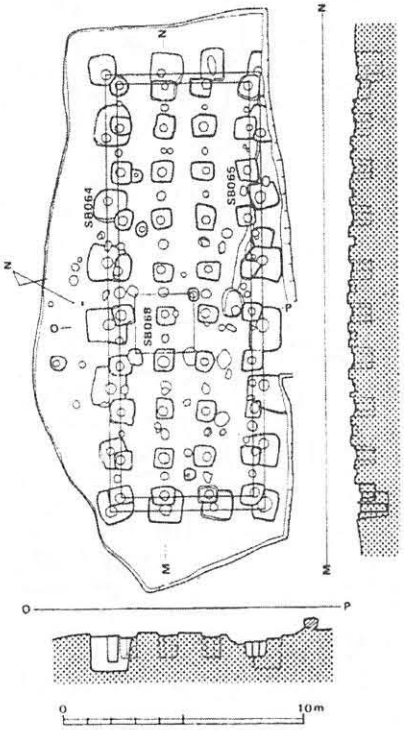
・建物は掘立柱建物から礎石建物へ移行　＊主城原SB064－天智4～9年の築造

④**井戸等**　ケイサシの井戸：石組井戸，深さ1.64m

鏡ケ池：皿状の窪地，溜井

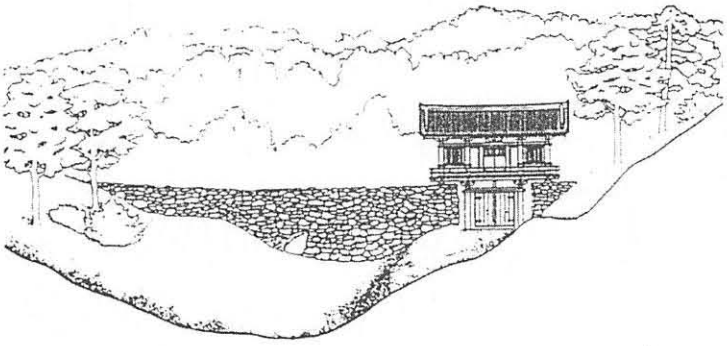
持国天の溜井





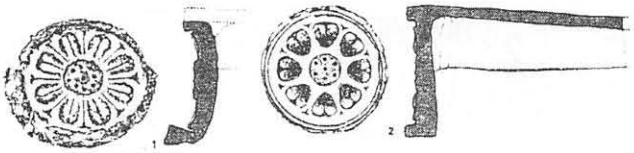
主城原地区掘立柱建物SB064・065・068

（『大野城跡Ⅲ』）

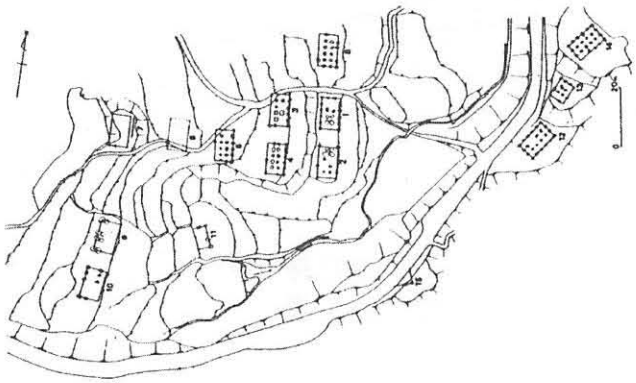


大野城跡太宰府口城門復原図

（『発掘が語る遠の朝廷　大宰府』）



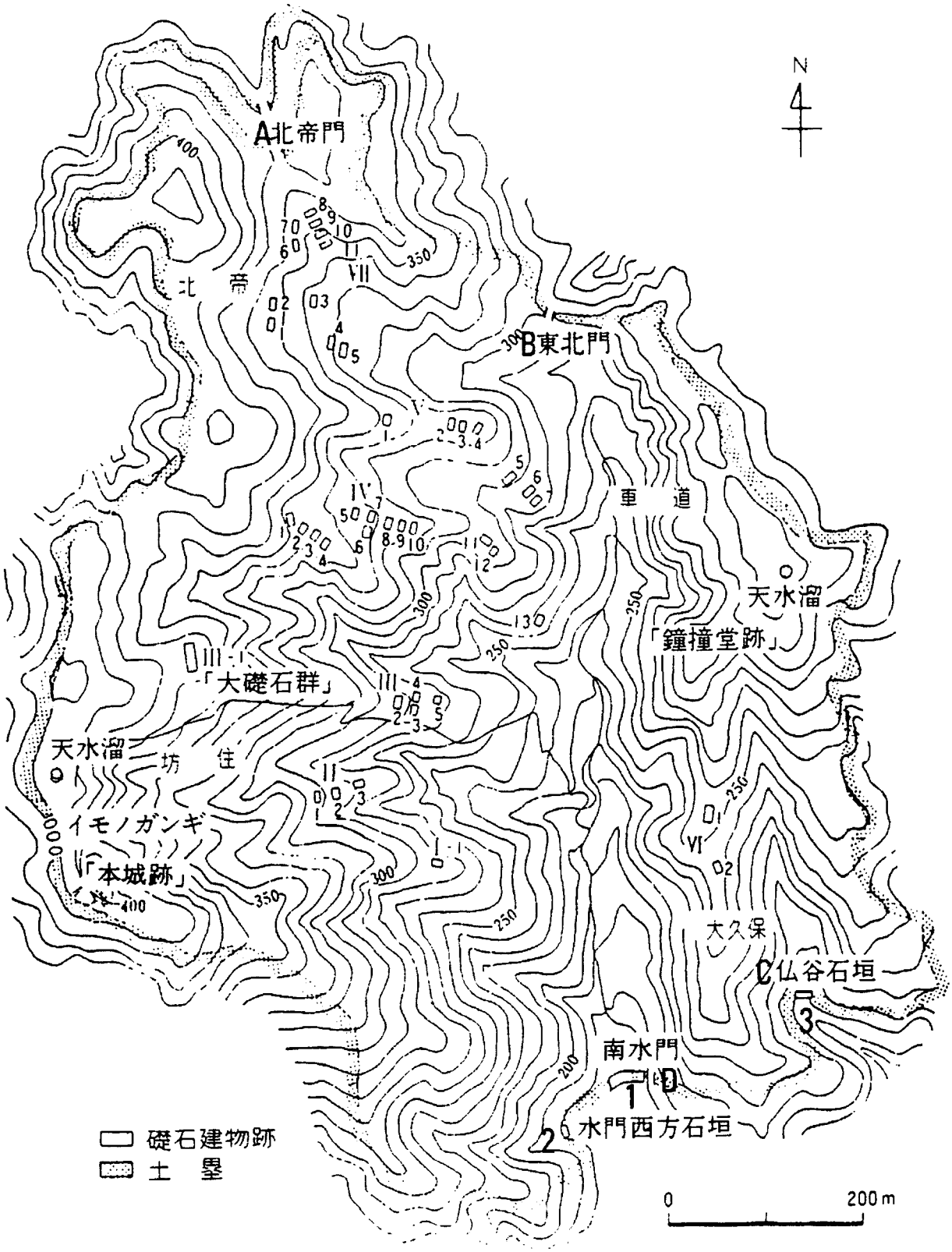
主城原地区出土軒丸瓦（『大野城跡Ⅶ』）



八ツ並地区礎石建物配置（『大野城跡Ⅰ』）

3)基肄城跡

※基肄城は，大野城と同時期に大宰府政庁南方約10kmの基山（標高404.5m）一帯に築かれた古代山城で，尾根線を周囲約4.4kmの土塁で繋ぎ，谷部には石塁を設ける。城内から40棟程の礎石建物が発見されており，大野城同様籠城としての性格を有する。



基肄城全体図（『大宰府都城の研究』）

①構　造

土塁…全長約4.4km（東西幅1.21km，南北長2.72km），高さ約2m，基部幅約2.5m

・土塁内側の平坦地は幅10m以上あり，西辺土塁内側平坦面には敷石を施す。

石塁…南側の谷部には石塁を設ける。

南門石塁：全長26.0m・幅10.9m・高さ8.5m，下部に水門を設置

水門西方石塁：長さ約3mと小規模

仏谷石塁：現状で長さ4m・高さ4.2m，土塁の切れ目→通路

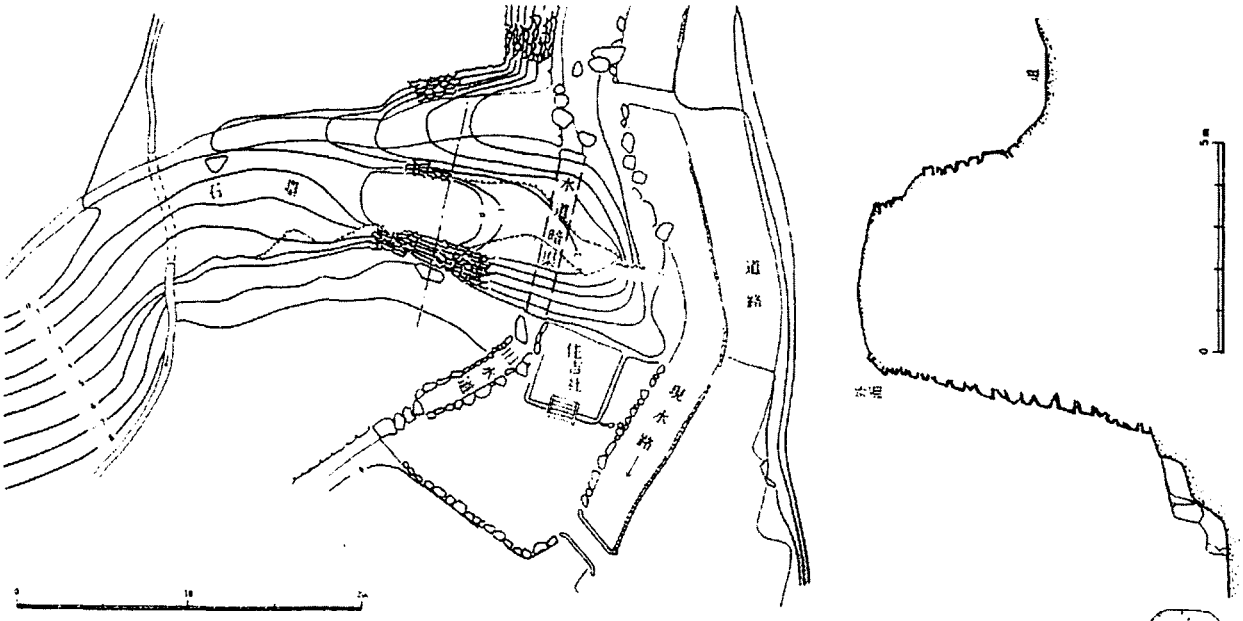
②**城　門**…4箇所（北帝（きたみかど）・東北・仏谷・南門跡）に城門を設置するが，西辺部には未設置

・東北門跡：掘立柱型式門礎，円形刳込－柱径40cm，軸受穴間隔－1.9m

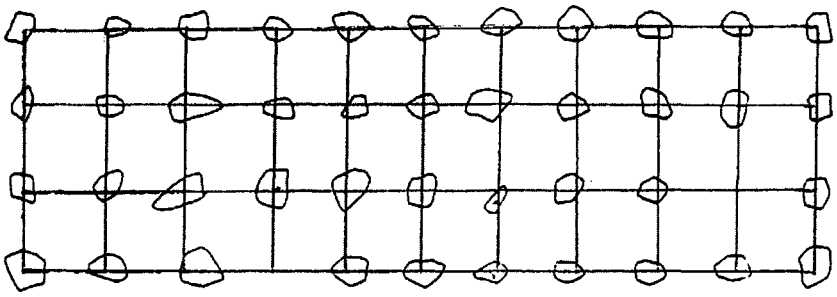
③**建　物**…城内には3×5間を主体とする礎石建物約40棟が7群に分かれて分布

・大礎石群：梁行3間(9.0m)×桁行10間(28.4m)　＊長倉型式

④**貯水施設**　つつみ跡：雨水溜

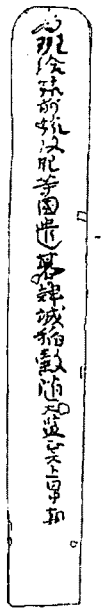


南門石塁（『大宰府都城の研究』）



礎石建物（①大礎石群，②・③米倉礎石群）

出土軒先瓦（『基肄城跡』）



不丁官衙ＳＤ2340「基肄城稲穀」銘木簡（『周辺官衙Ｖ』）

・為班給筑前筑後肥後等国遣基肄城稲穀随大監正六上田中朝□

4)阿志岐城跡

※阿志岐城は平成11年に発見された古代山城で，大宰府政庁南東約5kmの宮地岳（標高338.9m）の山腹に築かれており，土塁・石塁が確認されている。

①構　造

土塁…南西部に土塁は存在しないが，尾根線を城域と推定すると総延長3.67km

・土塁は内托（ないたく）法により，基部に1～2段列石を据える。

石塁…石塁が3箇所存在し，谷部を閉塞。石樋等の施設は未確認

②城　門…未確認

③築造時期と目的

名称：蘆城（あしき）？『万葉集』

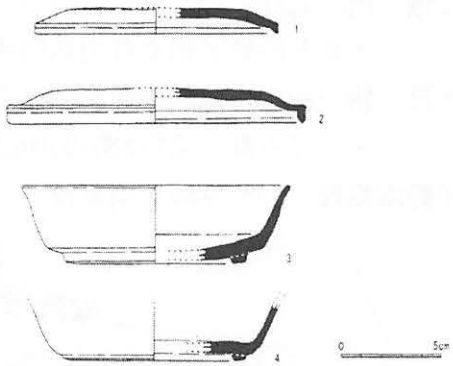
築造年：不詳

時期：第3水門出土土器－8ｃ中頃

目的：蘆城駅家（あしきのうまや）（御笠地区遺跡群）との関連

・筑後平野北半部の防衛拠点

・田河道に面し，古代官道を押さえる



第3水門出土土器（『阿志岐城跡』）

(3) 大宰府羅城

1)大宰府防衛プラン

※都府楼跡には，天智6年(667)11月条に「筑紫都督府（つくしのおおみこともちのつかさ）」と記される軍事的な施設（大宰府政庁Ⅰ期建物）が存在していた。

→磐瀬宮（長津宮）の機能移転

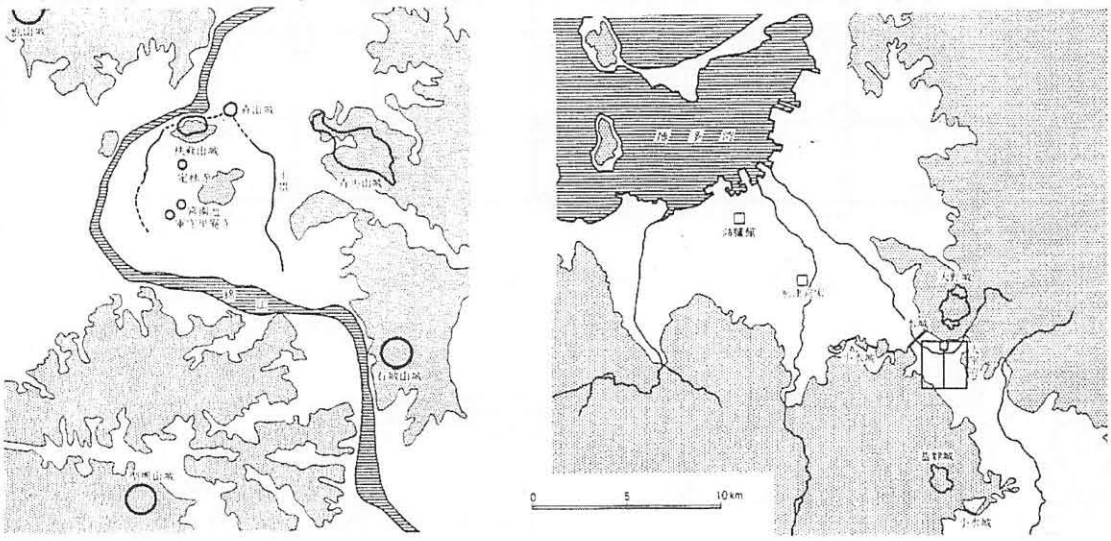
※筑紫率－栗前王（くるくまのおおきみ）(天智7・668年)・蘇我赤兄(天智8・669年)・栗隈王(天智10・671年)

※大宰府の防衛には，北の守りとして大野城があり，南の守りとして基肄城がある。玄界灘方面からの侵攻に対しては水城大堤・小水城が存在する。この3拠点間は山が連なり，自然の要害をなす。　→大宰府羅城　　＊羅城－古代都市の城の外郭

・難波羅城（天武8・679年）11月条　『日本書紀』

「この月に，初めて関を龍田山・大坂山に置く。仍りて難波に羅城を築く」

※大宰府防衛プランには，百済亡命官人による百済扶余の防衛体制が反映された。



百済扶余防衛体制と大宰府防衛施設位置図（岩波書店『古代日本を発掘する4』）

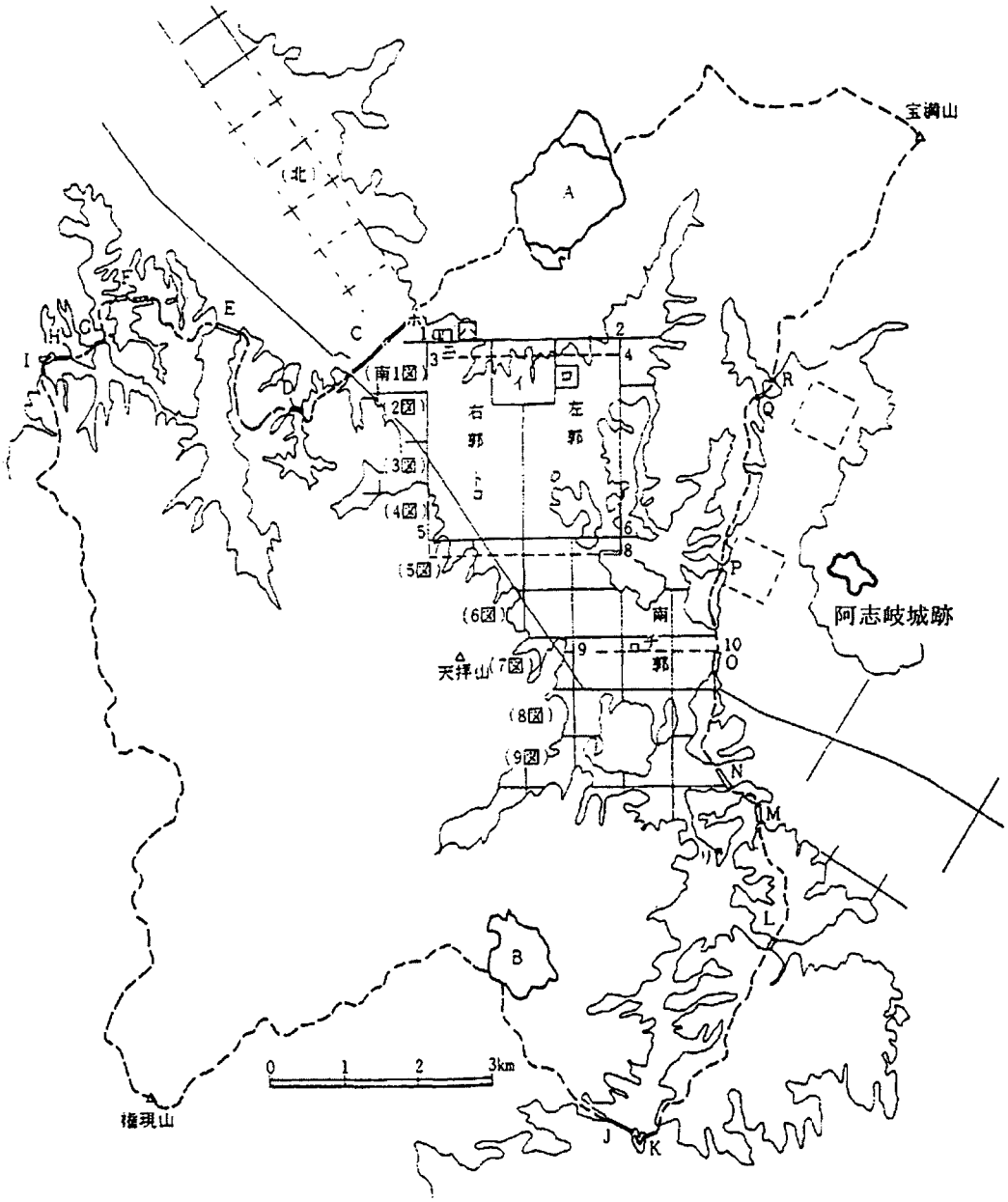
2)阿部義平氏の大宰府羅城説

※大野城・水城・基肄城を自然地形を介した城壁とみなす。

大野城－水城大堤－小水城…稜線…基肄城－とうれぎ土塁－関屋土塁…稜線…大野城

問題点：大野城・基肄城以東においては，土塁は未確認

・新発見の阿志岐山城は，土塁想定地外に存在



A	大野城	H	天神山土塁	ハ	筑前国分寺	1～2	府郭北限(阿部説)
B	基肄城	I	天神山土塁	ニ	筑前国分尼寺	3～4	府郭北限(鏡山説)
C	水城	J	とうれぎ土塁	ホ	水城東門	5～6	府郭南限
D	上大利土塁	K	関屋土塁	ヘ	水城西門		(鏡山・阿部説)
E	春日土塁(推)	L～R	土塁想定地	ト	「一ノ上」地名	7～8	府郭南限
F	小倉土塁(推)	イ	府庁	チ	「八ノ江」地名		(日野1974・沢村説)
G	大土居	ロ	観世音寺	リ	筑紫神社	9～10	日野(1974)説里界線

大宰府羅城内の構成（『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集）

3　大宰府と鞠智城

(1) 大宰府の関与

◎『続日本紀』文武2年(698)5月甲申条

「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕治(つくろ)はしむ」　　繕治：修繕して治すこと

◎『日本文徳天皇実録』天安2年(858)6月条

「大宰府言す。…肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴り，同城の不動倉十一宇を火(や)く」

不動倉：不動穀（非常米）を貯えた倉庫

・鞠智城について大宰府が報告を行っている　→大宰府の関与

(2) 鞠智跡の特異性と性格

1)立　地…他の古代山城と立地が異なる

・有明海から約30km内陸の丘陵部に位置し，大宰府からは約65の距離

2)築城記事…築城に関する記事がない

・鞠智城の初見は，『続日本紀』文武2年(698)5月甲申条の繕治記事

3)特殊な遺構・遺物

・八角形建物は日本の古代山城で初めての発見例　→韓国二聖山城に類例

・百済系銅造菩薩立像　　＊百済との関連

4)性　格

①大宰府の後方支援

・兵站基地としての役割

・国防の最南端拠点　→有明海方面からの進入を阻止

②九州南部統治の拠点

・隼人計略のための防衛施設

・九州南部統治

・行政施設　→九州南部に向かう古代官道の存在

③古代官衙

・官衙的建物群の存在－長者原地区60～63号掘立柱建物

・荷札木簡の存在　・1号木簡「秦人忍□(メカ)五斗」　長さ13.4cm・幅2.6cm，ヒノキ製

・天安2年(858)，元慶3年(879)「菊池城院」

＊院とは郷と郷の中間地点に設けられた官営の倉庫群で，税の保管と管理を行う

＊税を徴収する行政的な機能を備え持つ城塞

④百済との深い関係

・百済仏，八角形建物，百済系軒丸瓦（単弁八弁蓮華文・蓮子1＋6）

＊秦氏は百済系の渡来氏族とされている

⑤性格の変容

・存続期間で性格が変化したとの考え

Ⅰ(7ｃ　)：古代山城として築城され，有明海方面に対する防衛拠点

Ⅱ(8ｃ代)：律令制の浸透により南部九州を見据えた官衙的性格が増大

Ⅲ(9ｃ代)：有明海防備の拠点施設　←新羅の政情が不安定となり，海賊が横行

鞠智城「繕治」の歴史的背景

森　公章（東洋大学文学部教授）

□鞠智城の初見記事（修繕記事）

（史料１）『続日本紀』文武２年（698）５月甲申条

令大宰府繕治大野・基肄・鞠智三城。

□鞠智城跡の遺構編年：Ⅰ期（７世紀第３四半期～第４四半期）・創建期／Ⅱ期（７世紀末～８世紀第１四半期前半）・隆盛期／Ⅲ期（８世紀第１四半期後半～８世紀第３四半期）・転換期／Ⅳ期（８世紀第４四半期～９世紀第３四半期）・変革期／Ⅴ期（９世紀第４四半期～10 世紀第３四半期）・終末期

…Ⅱ期は城を管理する「管理棟的建物群」や八角形建物が建設され、城内施設の充実が推進され、土器などの日用什器の出土も最も多く、城の管理・運営に多くの人員が配備される。

Ⅰ　古代山城は完成していたのか

□古代山城の完成度（図１）【亀田 2014】

完成していたと思われる山城…筑前大野城跡、肥前基肄城跡、対馬金田城跡／肥後鞠智城跡、備中鬼ノ城、豊前御所ヶ谷神籠石／（備前大廻小廻山城、伊予永納山城、讃岐屋嶋城）／《河内高安城跡》

未完成の可能性がある山城…豊前唐原山城跡、筑前阿志岐城跡、筑前鹿毛馬神籠石、筑後女山神籠石、肥前おつぼ山神籠石、播磨城山城跡、周防石城山神籠石、讃岐城山城跡／（筑前杷木神籠石、筑後高良山神籠石）

□白村江戦後の朝鮮半島情勢の推移

表１　朝鮮半島情勢略年表　（○は月不明を示す）

665 年…8 月：熊津にて新羅・百済の盟誓

668 年…9 月：高句麗滅亡／○：新羅、百済へ侵攻

669 年…5 月：新羅、唐へ謝罪使派遣／末：鉗牟岑、唐に叛する

670 年…5 月：新羅、百済へ侵攻／8 月：金馬渚に小高句麗国成立

671 年…7 月：新羅、所夫里州設置／○：新羅、湯井州設置／○：新羅、所夫里州総管設置、百済民を白衿誓幢に編成

672 年…7 月：新羅の阿飡大吐が唐について叛乱を謀るが、誅殺される／8 月：新羅、西海を鎮守／○：新羅、来投百済人に内外官を授ける

674 年…1 月：唐、文武王の官爵を奪う

675 年…2 月：唐、新羅の謝罪により官爵を復す／○：新羅、百済の地を取る
676 年…11 月：新羅、所夫里州伎伐浦で唐軍と戦う
677 年…3 月：新羅、所夫里州より白鷹献上
678 年…4 月：新羅、武珍州都督を任命
679 年…2 月：新羅、耽羅国を攻略し、服属国とする
683 年…10 月：小高句麗国（報徳国）滅亡
684 年…11 月：報徳国遺民の叛乱平定
○半島で不利な戦況となった唐の駐留軍やその配下の百済遺民から倭国に救援要請の遣使
…『日本書紀』天智 10 年(671)正月辛亥、２月庚寅、６月己巳・庚寅、７月丙午条／
11 月癸卯条：使人 600 人、送使 1400 人、計 2000 人・船 47 隻の一大使節を派遣
…白村江戦の倭軍の捕虜送還・救援の派兵を引き出す方途【松田 1980／直木 1987】
唐・新羅の侵攻の脅威が去ったと感得／山城による防衛網構築も緊急性が緩む
→672 年 5 月壬申の乱（皇位継承をめぐる内戦）へ
□修治記事がある山城～高安城の場合～
（史料２）『日本書紀』天智６年（667）11 月是月条
築倭国高安城、讃吉国山田郡屋嶋城、対馬国金田城。
（史料３）『日本書紀』天智８年（669）８月己酉条
天皇登高安城、議欲修城。仍恤民疲止而不作。時人感而歎曰、寔乃仁愛之徳不亦寛乎云々。
（史料４）『日本書紀』天智８年（669）是冬条
修高安城、収畿内之田税。
（史料５）『日本書紀』天智９年（670）２月条
（上略）又修高安城積穀与塩。又築長門城一・筑紫城二。
（史料６）『日本書紀』天武元年（672）７月壬子条
（上略）是日、坂本臣財等、次于平石野。時聞近江軍在高安城而登之。乃近江軍知財等来、以悉焚税倉、皆散亡。仍宿城中。会明臨見西方、自大津・丹比両道軍衆多至。顕見旗織、有人曰、近江将壹伎史韓国之師也。財等自高安城降、以渡衛我河、与韓国戦于河西。（下略）
（史料７）『日本書紀』天武４年（675）２月丁酉条
天皇幸於高安城。
（史料８）『日本書紀』持統３年（689）10 月庚申条
天皇幸高安城。
（史料９）『続日本紀』文武２年（698）８月丁未条
修理高安城〈天智天皇五年築城也〉。
（史料 10）『続日本紀』文武３年（699）９月丙寅条
修理高安城。
（史料 11）『続日本紀』大宝元年（701）８月丙寅条

廃高安城。其舎屋雑儲物、移貯于大倭・河内二国。
（史料 12）『続日本紀』和銅５年（712）正月壬辰条
廃河内国高安烽、始置高見烽及大倭国春日烽、以通平城也。
（史料 13）『続日本紀』和銅５年（712）８月庚申条
行幸高安城。
○高安城…税倉があり、穀物・塩などが備蓄／史料６：近江方の守備兵が配置
○高安城からは西方の様子がよくわかる→瀬戸内海方面の眺望も含めた要衝の立地
○その後も天武・持統天皇が行幸→大宝令施行時に廃城／烽の機能は残る→平城京遷都によるシステム変更で廃止／元明天皇の行幸記事があり、なお何らかの施設が残ったか

Ⅱ 総領・大宰と山城

□大宰府が管内の山城を管理【笹山 2010／坂上 2011】
（史料 13）大宰府政庁跡不丁地区出土木簡（木研９）　ＳＤ2340…８世紀中葉に埋没
為班給筑前筑後肥等国遣基肄城稲穀随〈大監正六上田中朝□［〉　264･34･6　011
□総領・大宰の存在…瀬戸内海地域（除『常陸国風土記』の「惣領自坂已東之国」）
・吉備…『日本書紀』天武元年（672）６月丙戌条／天武８年（679）３月己丑条／『播磨国風土記』飾磨郡広山里条（播磨も管轄）
・周防…『日本書紀』天武 14 年（685）11 月甲辰条
・伊予…『日本書紀』持統３年（689）８月辛丑条（讃岐も管轄）／持統５年（691）７月壬申条／『大同類聚方』巻 15
　@養老３年（719）の按察使
　　播磨国守が備前・美作・備中・淡路、伊予国守が阿波・讃岐・土佐、備後国守が安芸・周防を所管
□山城と国府
○山城に伴うインフラ整備…道路網の整備など、交通・情報掌握による国家統制の基幹
○讃岐の城山城の麓には讃岐国府／鬼ノ城の麓には備中国府／大廻小廻城も備前国分寺と近い→国郡制支配の中枢になる
□総領・大宰の終焉→大宝律令施行により大宰府だけが残る／山城の時代の終わり
（史料 14）『続日本紀』文武四年（700）十月己未条
以直大壹石上朝臣麻呂為筑紫捻領、直広弐小野朝臣毛野為大弐。直広参波多朝臣牟後閇為周防捻領。直広参上毛野朝臣小足為吉備捻領。直広参百済王遠宝為常陸守。
（史料 15）『続日本紀』養老３年（719）12 月戊戌条
停備後国安那郡茨城・葦田郡常城。

Ⅲ 大宝律令の施行と地方支配の強化

□国郡制の施行と地方支配の強化

表２　大宝前後の地方支配政策

持統 8(694)・3・11：評司の初叙規定を定める（→選叙令郡司条）

持統 9(695)・3・23：文忌寸博勢らを多禰に遣し、蛮の所居を求めしむ

文武 1(697)・10・19：陸奥蝦夷が方物を貢上／12・18：越後蝦狄に賜物

文武 2(698)・3・5：因幡国が銅鉱を献上 // 9：出雲国意宇郡・筑前国宗像郡の郡司に三等已上親の連任を許す // 10：諸国の郡司を任じ、国司に郡司銓擬方法を指示する／4・13：文忌寸博士ら 8 人を南島に派遣し、覓国／6・8：近江国が白樊石を献上／7・17：伊予国が白錫を献上 // 27：伊予国が錫鉱を献上／9・25：周防国が銅鉱を献上 // 28：近江国は金青、伊勢国は朱砂・雄黄、常陸・備前・伊予・日向国は朱砂、安芸・長門国は金青・緑青、豊後国は真朱を献じさせる／10・23：陸奥蝦夷が方物を献上／11・5：伊勢国が白錫を献上 // 29：下総国が牛黄を献上／12・5：対馬島に金鉱を冶せしむ

文武 3(699)・4・25：越後蝦狄 106 人に賜爵／7・19：多褖・夜久・奄美・度感等の人が方物を貢上／10・27：巡察使を諸国に派遣して非違を検察せしむ／11・4：文忌寸博士らが南島から帰朝

文武 4(700)・2・4：上総国安房郡の郡領に父子兄弟の連任を許す // 8：丹波国が錫を献上 // 22：巡察使を東山道に遣し、非違を検察せしむ／3・17：諸国に牧地を定めて牛馬を放つ／6・3：覓国使刑部真人らを剽劫した薩末比売らを決罰

大宝 1(701)・4・15：田領を罷めて国司の巡検に委ねる／6・8：国司・郡司に大税貯蓄の如法を令す／8・25：諸国に衛士を加差させる／9・9：諸国に遣使して産業を巡省し、百姓を賑恤する

大宝 2(702)・2・13：大幣班賜のために諸国の国造を入京させる // 19：諸国の大租・駅起稲・義倉・兵器の数文を弁官に送らせることにする // 20：諸国の国師を任命 // 28；諸国司が初めて鎰を給付され罷かる／3・8：度量を諸国に頒賜 // 17：越中国 4 郡を分って越後国に属す // 30：大宰府が所部国掾以下と郡司らを銓擬することを許す／4・13：諸国の国造之氏を定め、国造記に記載 // 15：筑紫 7 国と越後国は采女・兵衛を簡点して貢上するものとし、陸奥国はこれらを貢上しないものとする／8・1：薩摩・多褖が隔化逆命→兵を発して征討し、戸を校じて吏を置く／9・14：薩摩隼人を征した時に祈祷した大宰府管内の 9 神に奉幣。また唱更国司（薩摩国司）らが国内の要害に柵を建設し、戍を置いて守備することを求む

（備考）「／」は月の区分、「//」は同月内での日付の区分を示す。

□越後蝦狄・出羽地域への版図拡大→712 年出羽国

（史料 16）『続日本紀』文武 2 年（698）12 月丁未条

令越後国修理石船柵。

（史料 17）『続日本紀』文武４年（700）２月己亥条
令越後・佐渡二国修営石船柵。
○石船柵は大化４年（648）設置→斉明朝の越国司阿倍比羅夫による北方遠征の拠点に

Ⅳ 鞠智城繕治の目的

□繕治目的に関する学説
○対隼人政策・南島との通交【菊池 2014／古内 2014】
○大宰府による西海道統治のため施設整備【木村 2014】
…第Ⅱ期（図２）：兵舎が消失し、防衛機能に関わるものは新設されていない
□隼人対策の様相【土橋 1997／熊谷 2013】
（史料 18）『続日本紀』文武３年（699）12 月甲申条
令大宰府修三野・稲積二城。
（史料 19）『続日本紀』文武４年（699）６月庚辰条
薩末比売・久売・波豆、衣評督衣君県・助督衣君弖自美、又肝衝難波、従肥人等持兵剽劫覓国使刑部真木等。於是、勅竺志惣領、准犯決罰。
（史料 20）『続日本紀』大宝２年（702）８月甲申朔条
薩摩・多褄、隔化逆命。於是発兵征討、遂校戸置吏焉。
（史料 21）『続日本紀』大宝２年（702）９月戊寅条
討薩摩隼人軍士、授勲各有差。
（史料 22）『続日本紀』大宝２年（702）10 月丁酉条
先是、征薩摩隼人時、祷祈大宰所部神九処、実頼神威、遂平荒賊。爰奉幣帛以賽其祷焉。唱更国司等〈今薩摩国也〉言、於国内要害之地建柵置戍守之。許焉。
□大宰府と鞠智城を結ぶ交通路（図３）【木本 2014】
□「肥人」の活動（史料 19）から考える
○天平８年度薩摩国正税帳…国府所在の高城郡と出水郡は隼人 11 郡とは区別される存在
○『和名抄』の高城郡の郷名…合志・飽多・宇土・託万あり（図４も参照）
○出水郡の郡司…大領肥君、少領五百木部、主政・主帳は大伴部（『大日本古文書』２―20）、
@大伴部：肥後国益城郡の人で相撲人の大伴君熊凝（『万葉集』巻５―886～91 題詞）
→肥後地域は薩摩国の建国、その後の国府を中心とする統治の中で、重要な役割
□覓国使派遣と一体の方策として、九州南部や南島への版図拡大の課題が設定
→征討に至るか否かは未定であるが、南方への一つの拠点として、鞠智城の整備は必要
薩摩国高城郡の郷名と関係する肥後国の郡名は、いずれも肥後国北半部に所在
南部には隼人と結託する「肥人等」がいたか
□その後の南方政策…日向国の４郡を割いて大隅国を建国（『続日本紀』和銅６年４月乙未条）、多褄島への印給付（同７年４月辛巳条）、南島人の京上（同７年 12 月戊牛条、霊

亀元年正月甲申朔・戊戌条）

□隼人の最大の反乱と平定

…養老４年（720）には隼人が大隅国守を殺害して大規模な反乱を起こす（『続日本紀』養老４年２月壬子条、３月丙辰条、６月戊戌条、８月壬辰条、11月丙辰条、同５年７月壬子条、12月乙酉条、同６年４月丙戌条、同７年４月壬寅条）

→以後は隼人の安定した朝貢が確立

（参考文献）

岡山県古代吉備文化財センター 2013『鬼ノ城発掘調査報告会 ここまで分かった鬼ノ城』

狩野久 2010「瀬戸内古代山城の時代」『坪井清足先生卒寿記念論文集』

亀田修一 2014「古代山城は完成していたか」『鞠智城跡Ⅱ―論考編１―』熊本県教育委員会

木村龍生 2014「鞠智城の役割に関する一考察―熊襲・隼人対策説への反論―」『鞠智城跡Ⅱ―論考編１―』熊本県教育委員会

木本雅康 2014「鞠智城西南部の古代官道について」『鞠智城跡Ⅱ―論考編１―』熊本県教育委員会

熊谷明希 2013「文武朝における「薩摩隼人」の征討と唱更国の成立」『歴史』121

熊本県教育委員会 2012『鞠智城跡Ⅱ』（西住欣一郎・矢野裕介・木村龍生編）

熊本県教育委員会 2014『鞠智城跡Ⅱ―論考編１―』

坂上康俊 2011「文献からみた鞠智城」『鞠智城とその時代』熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

笹山晴生監修 2010『古代山城鞠智城を考える』山川出版社

土橋誠 1997「覓国使について」『古代の日本と渡来文化』学生社

直木孝次郎 1988「近江朝末年における日唐関係」『古代日本と朝鮮・中国』講談社

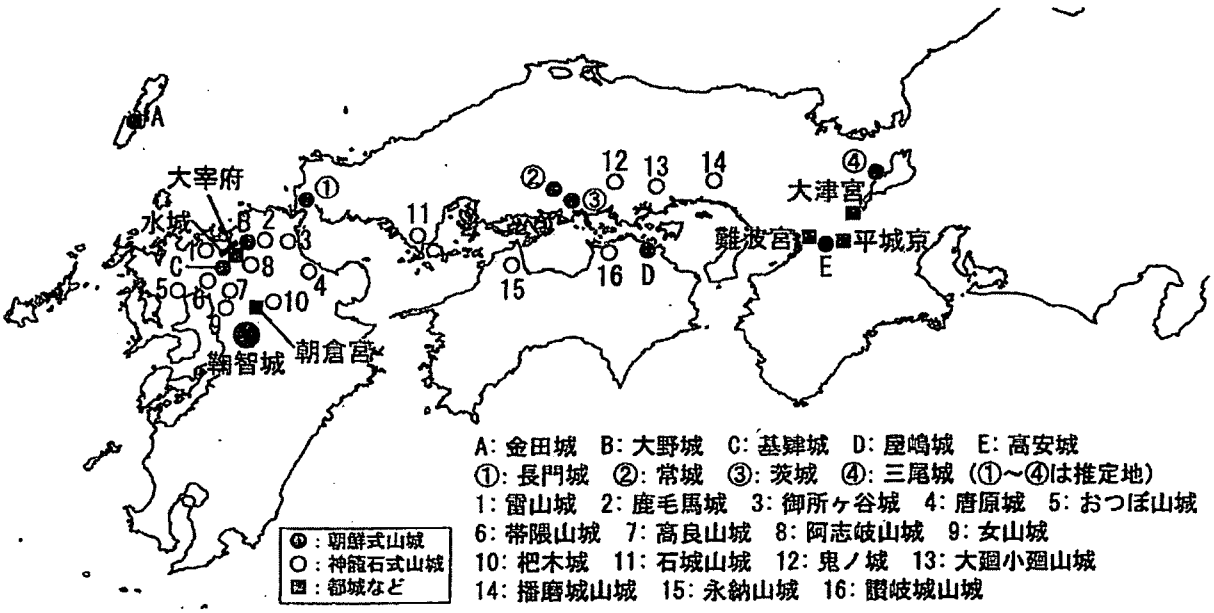
松田好弘 1980「天智朝の外交について」『立命館文学』415･416･417

村上幸雄・乗岡実 1999『鬼ノ城と大廻り小廻り』吉備人出版

黛弘道 1982「国司制の成立」『律令国家成立史の研究』吉川弘文館

『鞠智城と古代社会』1（2013）…古川順大 2013「鞠智城が肥後在地社会に与えた影響」／大高広和「八世紀西海道における対外防衛政策のあり方と朝鮮式山城」／宮川麻紀「鞠智城築城の背景」

『鞠智城と古代社会』2（2014）…柿沼亮介「朝鮮式山城の外交・防衛上の機能の比較研究からみた鞠智城」／菊池達也「律令国家成立期における鞠智城―「繕治と列島南部との関係を中心に―」／古内絵里子「日本における古代山城の変遷」



（熊本県教育委員会作成パンフレット「鞠智城―鞠智城の築城とその変遷―」より）

図１　古代山城の分布

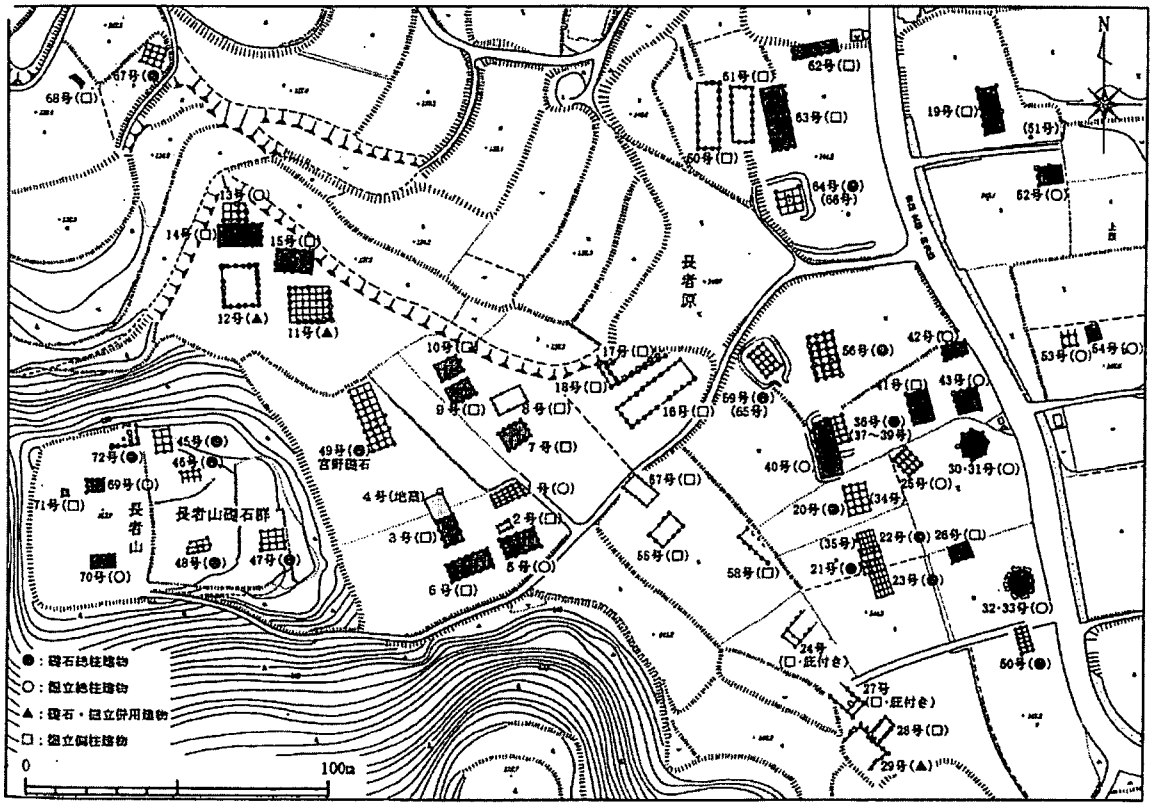


図２　鞠智城第Ⅱ期遺構配置図（『鞠智城跡Ⅱ』による）

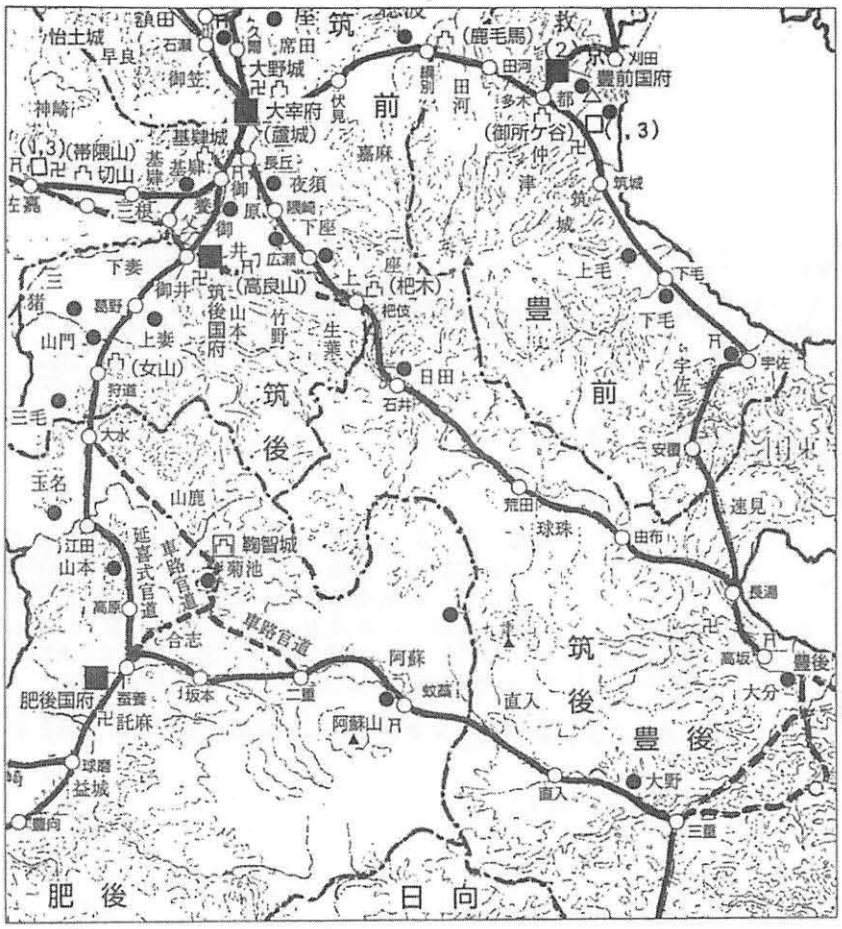


図３　大宰府と鞠智城を結ぶ道路網

（笹山晴生監修『古代山城 鞠智城を考える』〔山川出版社、2010 年〕52 頁による）

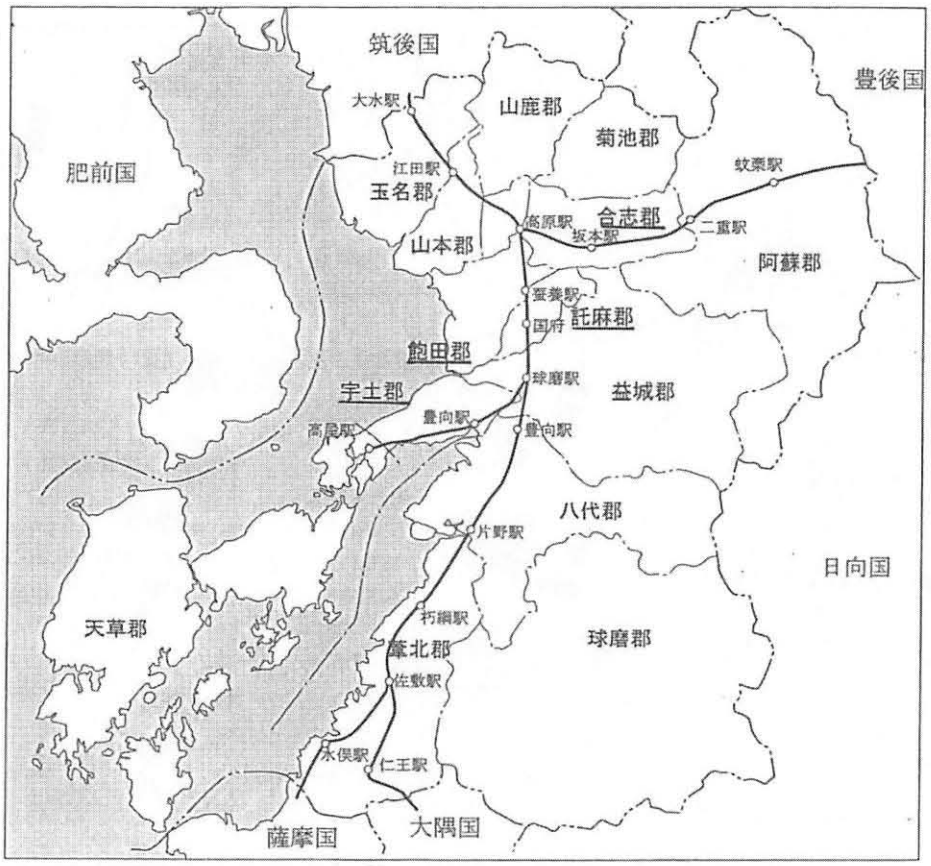
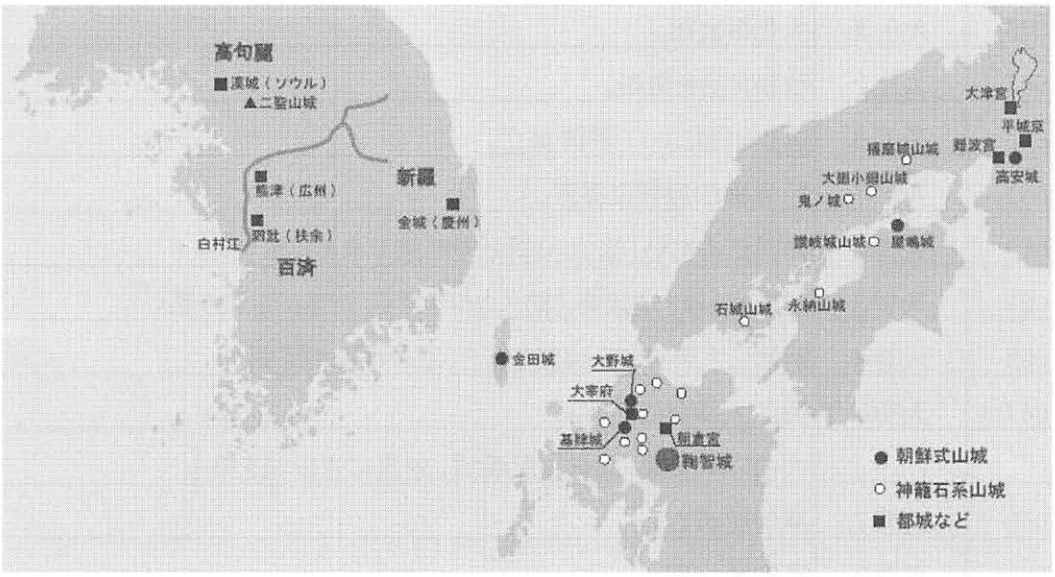


図４　肥後国全体図

（古代交通研究会編『日本古代道路事典』〔八木書店、2004 年〕366 頁を利用）

参考資料

鞠智城・古代山城分布図



古代山城分布図

鞠智城跡関連地図

※日野尚志『古代の官道』

（鞠智城・温故創生館・館長講座資料）

2007 を基に作成。

鞠智城関連年表

西　暦	年　号	内容
645	大化元	大化の改新。
646	大化2	改新の詔を発布。
660	斉明6	唐と新羅によって百済滅亡。
661	斉明7	朝倉橘広庭宮に遷宮。
663	天智2	白村江の戦い　※大和朝廷軍が唐の水軍に敗れる。
664	天智3	対馬・壱岐・筑紫等に防人と烽を置く。筑紫に水城を築く。
665	天智4	筑紫に大野城、基肄城を築き、長門国に城を築く。
667	天智6	近江大津宮に遷宮。
〃	〃	大和に高安城、讃岐に屋嶋城、対馬に金田城を築く。
668	天智7	高句麗滅亡。
669	天智8	高安城修理。
670	天智9	高安城修理。
672	天武元	壬申の乱。
676	天武5	新羅が朝鮮半島を統一。
678	天武7	筑紫国大地震。
694	持統8	藤原京遷都。
696	持統10	※「肥後国」の文献上の初見。
698	文武2	大宰府に大野・基肄・鞠智の三城を繕治させる。
〃	〃	高安城を修理。
699	文武3	高安城を修理。
〃	〃	大宰府に稲積・三野の二城を修理させる。
701	大宝元	大宝律令制定。
710	和銅3	平城京に遷都。
719	養老3	備後国安那郡の茨城、葦田郡の常城を停める。
756	天平勝宝8	怡土城を築く。
794	延暦13	平安京に遷都
799	延暦18	大宰府管内を除いて烽を廃止。
858	天安2	(閏2月)肥後国菊池城院の兵庫の鼓が自ら鳴る。
〃	〃	(5月)菊池城の不動倉11棟が火災に遭う。
875	貞観17	カラスの群れが菊池郡倉舎の葦草を噛み抜く。
879	元慶3	肥後国菊池郡城院の兵庫の戸が自ら鳴る。

この電子書籍は、律令国家の確立と鞠智城 鞠智城シンポジウム発表要旨 2014 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：律令国家の確立と鞠智城 698 年「繕治」の実像を探る
鞠智城シンポジウム発表要旨 2014
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2022 年 7 月 21 日